

DX BROADTEC

ブルーレイディスクプレーヤー 形名 **DXBP1TD**

取扱説明書



ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

ご使用になる前に

安全上のご注意

◆ 誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。



警告

誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性があるもの



注意

誤った取り扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結び付く可能性があるもの

◆ 図記号の意味は次のとおりです。



絶対に行なわないでください



絶対に分解・修理はしないでください



絶対に触れないでください



絶対に水にぬらさないでください



絶対にぬれた手で触れないでください



指のケガに注意してください



必ず指示にしたがい、行なってください



必ず電源プラグをコンセントから抜いてください



手をはさまないように注意してください



警告

万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く!!

異常のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。



プラグを抜く



プラグを抜く

煙がでてい、変なにおいがするなど、異常なときは、電源プラグをすぐ抜く!!

異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜き、煙がでなくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。



分解禁止

キャビネット（天板）をはずしたり、改造しない

火災や感電の原因となります。また、レーザー光が目にあたると、視力障害をおこす原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。



禁止

不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。



使用禁止

落としたり、キャビネット（天板）を破損した場合は使わない

火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

花びんやコップ、植木鉢などを上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

水でぬらさない

火災や感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺などの屋外や、窓辺での使用は、特にご注意ください。



乾電池を放置しない

乾電池は飲み込むおそれがあるので、乳幼児の手の届かないところに置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師と相談してください。



AC100V

電源はAC（交流）100Vを使う

AC（交流）100V以外の電源で使用すると、火災や感電の原因となります。

ご使用になる前に

警告



禁止

異物を入れない
(特にお子様にご注意を)

トレイ開閉口や通風孔から金属類や燃えやすいものなどが入ると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

- ◆ 引っ張らない
- ◆ ねじらない
- ◆ 無理に曲げない
- ◆ 束ねない
- ◆ 加熱しない
- ◆ 加工しない
- ◆ 上にものをのせない

コードが傷ついて、火災や感電の原因となります。電源コードの心線が露出したり断線するなど、コードが傷んだときは、すぐに販売店に修理をご依頼ください。



禁止

タコ足配線をしない

火災の原因となります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。



接触禁止

雷が鳴りだしたら、アンテナ線や本体には触れない

感電の原因となります。

注意



禁止

設置時は、次のような場所には置かない

- ◆ 湿気やほこりの多い場所
- ◆ 油煙や湯気が当たる場所
- ◆ 直射日光の当たる場所
- ◆ 熱器具の近く
- ◆ 閉めきった自動車内など、高温になるところ

このような場所に置くと、ショートや発熱、電源コードの被膜が溶けるなどして、火災や感電、故障、変形の原因となることがあります。



禁止

風通しの悪いところ、狭いところに置かない

- ◆ 本体後面の冷却ファンをふさがない
- ◆ 押し入れや本棚などに押し込まない
- ◆ じゅうたんや布団の上に置かない
- ◆ テーブルクロスなどをかけない

内部に熱がこもり、火災や感電、故障、変形の原因となることがあります。



禁止

テレビなどの重いものを上に置かない

- ◆ 上にのらない
(特にお子様にご注意を)
- ◆ トレイの前に物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがや故障の原因となることがあります。



禁止

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない

飛び散ってけがの原因となることがあります。



プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行なう

感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

長時間の外出や旅行のときは、電源プラグをコンセントから抜いておく

火災の原因となることがあります。

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

⚠ 注意



接続したまま移動させない

禁止

電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源コードや接続コードをはずしたことを確認してから移動させてください。また、ディスクは取り出しておいてください。



トレイ開閉口に手を入れない
(特にお子様にご注意を)

指のケガに注意 手はさみ注意

手のはさまれ、けがの原因となることがあります。万一、手のはさまれたときは、無理に引き抜かず、電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。



5年に一度は、内部の清掃を販売店に依頼する

内部清掃

内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行なうのが効果的です。内部掃除費用については、販売店にご相談ください。



電源プラグのほこりなどは定期的に取り、差し込みの具合を点検する

ほこりを取る

ほこりなどが付いたり、コンセントへの差し込みが不完全な場合は、火災や感電の原因となることがあります。1年に1回はプラグとコンセントの定期的な清掃をし、最後までしっかり差し込まれているか点検してください。



乾電池は正しく使う

正しく使う

- ◆ プラス (+) とマイナス (-) の向きを正しく入れる
- ◆ 必ずマイナス (-) 側から入れる
- ◆ 使いきったら、すぐに取り出す

間違えると、乾電池の破裂や液もれによって、火災やけが、周囲を汚す原因となることがあります。液が皮膚や衣服に付着したときは、きれいな水でよく洗い流してください。液が眼に入ったときは、すぐにきれいな水でよく洗ったあと、医師の治療を受けてください。



禁止

乾電池は指定以外のものを使わない

- ◆ 種類の異なるものを混ぜて使わない
- ◆ 新しいものと古いものを混ぜて使わない

指定以外のものを使うと、乾電池の破裂や液もれによって、火災やけが、周囲を汚す原因となることがあります。液が皮膚や衣服に付着したときは、きれいな水でよく洗い流してください。液が眼に入ったときは、すぐにきれいな水でよく洗ったあと、医師の治療を受けてください。



禁止

乾電池は分解したり、ショートさせたり、火の中に投入しない



禁止

乾電池を充電しない 充電式の電池は使用しない



プラグを持つ

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



禁止

光過敏の既往症のある方、心臓に疾患のある方、体調不良の方は3D映像を視聴しない

病状悪化の原因となることがあります。



3D映像を視聴中に疲労感、不快感など異常を感じるときは、視聴を中止する

そのまま視聴すると、体調不良の原因となることがあります。適度な休憩をとってください。



3D映像の視聴年齢については、おおよそ5~6歳以上を目安にする

お子様の場合は、疲労や不快感などに対する反応がわかりにくいいため、急に体調が悪くなることがあります。お子様が視聴の際は、保護者の方が目の疲れがないか、ご注意ください。



3D映画などを視聴する場合は一作品の視聴を目安に適度に休憩をとる

長時間の視聴による視覚疲労の原因となることがあります。

使用上のお願い

結露(つゆつき)について

■ 結露ってどうなるの？

暖房した部屋の窓ガラスに水滴がつくことがあります。これを**結露(つゆつき)**とよびます。

本機を…

- 寒いところから暖かいところへ急に移動させたとき。
- 暖房を始めたばかりの部屋で操作するとき。
- 湿気の多いところで使うとき。
- エアコンのそばなど、直接冷風の当たる場所で使うとき。

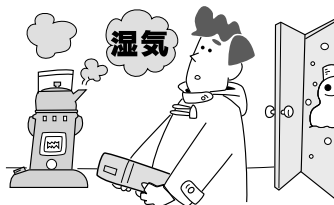
など、内部で**結露**が起こったり、内部のレンズにつゆ(水滴)がつき、正しく動作しないことがあります。

■ よく乾燥させてからお使いください。

このようなときは、電源を「入」にしたまま、しばらく乾燥のため放置して、湿気がなくなるまで操作しないでください。乾燥すると、正常に動作するようになります。

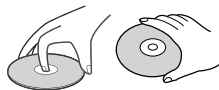
■ 結露が起こりそうなときは、よく乾燥させてからお使いください。

本機を移動させたあとなどはすぐに使用せず、電源を「入」にしたまま、しばらく乾燥のため放置して、湿気がなくなるまで操作しないでください。



ディスクの取り扱い

- 再生面に触れないようにディスクの端を持ってください。
- 紙やシールなどを貼ったり、傷をつけたりしないでください。
- 直射日光の当たる場所や熱器具のそばなど高温になる場所には置かない。
- 使用後は、所定のケースに入れて、保管してください。ケースにいれずに重ねたり、ななめに立てかけて置くとソリの原因になります。
- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、音質や画質低下の原因となります。いつもきれいに清掃しておきましょう。
- お手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外のほうへ軽くふきます。汚れがひどいときは、柔らかい布を水に浸し、よくしぼってからふき、乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電気防止剤などは、逆にディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- 本機で使用できるディスクについては、P19ページをご覧ください。



ご注意

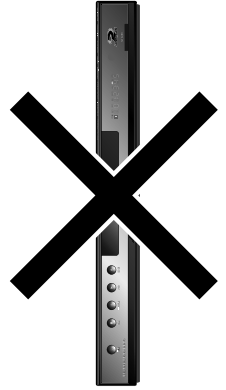
- 本機の近くで携帯電話およびPHSなどを使用すると、映像または、テレビ画面や音声にノイズが入ることがあります。この現象は本機の故障ではありません。携帯電話およびPHSなどを使用するときは、本機から離れた場所でご使用ください。
- 次のような場合に、映像や音声に悪い影響を与えることがあります。万一このような状況が生じた場合は、テレビと本機を離してください。
 - 本機の上に、テレビを直接置いたとき。
 - テレビの上に、本機を直接置いたとき。

3D(立体)映像を視聴するときのご注意

- 薬剤を常用している場合は、映像視聴による影響を強く受ける可能性があります。何らかの異常を感じた場合には使用を中止してください。
- 重い病気を経験した方、妊娠中の方は、映像視聴による影響を受ける可能性があるため、何らかの異常を感じた場合には視聴を中止してください。
- 3D(立体)映像を視聴したとき像が二重に見えたり、立体像が感じにくい場合は、直ちに使用を中止し、表示機器やソフトの設定に間違いがないか確認してください。それでも二重像に見えたり違和感を感じる等、立体視が成立しない場合は、利用を中止してください。
- 3D映像は適正な位置・適正な姿勢で視聴することをお勧めいたします。

本機の置き場所や取り扱い

- **高温状態をさけてください。**
持ち運びの際、窓を閉めきった自動車の中など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
- **本機内部の放熱をよくするために、本機後面の冷却用ファンと壁やテレビ台などの周辺物との間は、5cm以上空けてください。**
- **本機をご使用中、使用環境によっては本体やキャビネットの温度が若干高くなりますが、故障ではありません。安心してご使用ください。**
- **砂に注意しましょう。**
砂浜や砂ぼこりの多いところで使用する場合は、砂などが内部に入らないようにしてください。
- **携帯電話、トランシーバーなどの強い電波を発生するものの近くに置かないでください。**
電波の影響で本機が動かなくなります。
- **テレビやラジオの近くに置くと、映像や音声に悪い影響を与えることがあります。このような場合は、テレビやラジオから離してください。**
- **ご使用にならないときは、必ず【停止 ■】ボタンを押してからディスクを取り出し、電源を切ってください。**
- **長期間使用しないと機能に支障をきたす場合があります。ときどき電源を入れて作動させてください。**
- **国外では使えません。**
本機は日本国内用に設計されています。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
(This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.)
- **タテ置きではご使用できません。**



レーザーピックアップについて

- この取扱説明書の該当部分と「故障かな?と思ったときは」をお読みにになり、操作を行っても本機が正常に動作しない場合は、レーザーピックアップが汚れている可能性があります。修理については、お買い上げの販売店または「お客様相談室」にご相談ください。(☞ 裏表紙)

本機やリモコンのお手入れ

- **ベンジン、シンナーなどでふかないでください。**
キャビネットの表面はプラスチックが多く使われています。アルコール/ベンジン/シンナーなどでふいたりすると変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。
- **キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤に浸した布をよく絞ってふき取り、濡いた布で仕上げてください。**
- **化学ぞうきんは使わないでください。**
- **キャビネットに殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにすると、変質したり塗装がはげるなどの原因となります。**
- **お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

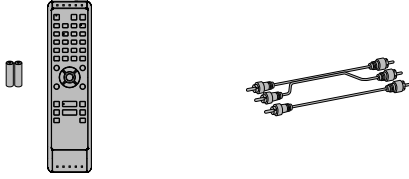
リモコンの取り扱い

- **乾電池の交換時期**
リモコンで操作できる距離が短くなってきた場合は、乾電池が消耗しています。すべて同時に新品に交換し、新旧をまぜて使用することは避けてください。付属の乾電池は動作確認用のため、通常より寿命が短い場合があります。
- **リモコン保管時のご注意**
長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り出してから保管してください。

修理について

- **本機が動作しなくなった場合は、ご自分で分解や修理をしないでください。**
電源プラグを抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。

付属品について



- リモコン
- 単3乾電池(1.5V 2個)
- 映像/音声ケーブル



- 取扱説明書(本書)
- クイックガイド



- 保証書

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書では、それぞれの機能に対応しているメディアを下記のアイコンで表記しています。アイコンは、各説明項目の見出し下部に記載しています。

アイコン	説明
	BDビデオディスク、またはBDMVモードで記録されたBD-RE (ver.2.1)/ BD-R (ver.1.1/1.2/1.3) で楽しめる機能を表します。
	BDAVモードで記録されたBD-RE (ver.2.1)/ BD-R (ver.1.1/1.2/1.3) で楽しめる機能を表します。
	DVDビデオディスク、またはビデオモードで記録されたDVD-RW/-Rで楽しめる機能を表します。
	VRモードで記録されたDVD-RW/-Rで楽しめる機能を表します。
	AVCRECモードで記録されたDVD-RW/-Rで楽しめる機能を表します。
	音楽用CDまたはDTS-CDで楽しめる機能を表します。
	AVCHDファイルが記録されたDVD-RW/-RまたはSDカードで楽しめる機能を表します。
	MP3ファイルが記録されたBD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-RまたはSDカードで楽しめる機能を表します。
	JPEGファイルが記録されたBD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-RまたはSDカードで楽しめる機能を表します。

※アイコンの記載がない項目については、☞ 19,20ページを参照してください。

本機で使用している登録商標について



HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、米国およびその他の国々におけるHDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS は、DTS, Inc.の登録商標です。
DTS-HD Master Audio | Essential は、DTS, Inc.の商標です。
Manufactured under license under U.S. Patent #'s: 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,392,195; 7,272,567; 7,333,929; 7,212,872 & other U.S. and worldwide patents issued & pending. DTS and the Symbol are registered trademarks, & DTS-HD, DTS-HD Master Audio | Essential and the DTS logos are trademarks of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.



"x.v.Color"および"x.v.Color"ロゴは、ソニー株式会社の商標です。



"Blu-ray 3D"および"Blu-ray 3D"ロゴは、Blu-ray Disc Associationの商標です。



"Blu-ray Disc"、"Blu-ray"及び"Blu-ray Disc"ロゴはBlu-ray Disc Associationの商標です。



DVDロゴはDVDフォーマットロゴライセンシング(株)の商標です。



"AVCHD"および"AVCHD"ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。



"AVCREC"および"AVCREC"ロゴは、Blu-ray Disc Associationの商標です。



"BONUSVIEW"はBlu-ray Disc Association の商標です。



"BD-Live"および"BD-Live"ロゴは、Blu-ray Disc Associationの商標です。



Oracle と Javaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

もくじ

ご使用になる前に

安全上のご注意	2
使用上のお願い	5
付属品について	7
この取扱説明書の見かた	7
本機で使用している登録商標について	8
本機の特長	10
各部の名前とはたらき	11
前面	11
後面	11
リモコン	12
本体表示部	14









接続する

テレビとの接続	15
オーディオシステムとの接続	17
ネットワーク接続	18
接続が完了したら	18

再生する

再生に関する情報	19
再生の前に	22
SDカードを再生する	23
メディアを選択する	24
BD、DVD、AVCHDを再生する	24
BD-REモードやAVCRECモード、VRモードで 記録されたディスクを再生する	25
音楽用CD、MP3、JPEGを再生する	26
3Dブルーレイを再生する	27
ピクチャーCDを再生する	27
早送り/早戻し	28
スロー再生	29
コマ送り再生	29
リピート再生	29
プログラム再生	30
ランダム再生	31
画質調整	32
バーチャルサラウンド設定	32
PIP（ピクチャー・イン・ピクチャー） （BONUSVIEW）の設定	32
アングルを切り換える	33
BD-Liveについて	33
サーチ機能を使う	34
字幕を切り換える	34
音声を切り換える	35
BD-HD音声設定を切り換える	36

設定

初期設定操作のしかた （セットアップメニュー）	37
 簡単設定	37
 詳細設定	37
 再生設定	38
 映像出力設定	39
 音声出力設定	41
 視聴制限設定	47
 その他設定	48
ネットワーク設定	50
接続テスト	50
簡単設定	50
詳細設定	51
接続無効	53
システム・バージョンアップ	54
現在のバージョン	54
ディスクアップデート	54
ネットワークアップデート	54
 初期化	55

その他

故障かな？と思ったときは	56
用語解説	58
言語コード一覧	60
主な仕様	61
本製品で使用するソフトウェアについて	62
保証とアフターサービス	67

本機の特長

メディア再生

対応メディア

DVD約5枚分の大容量記録媒体、ブルーレイディスク(BD)の再生をお楽しみいただけます。BDに加え、DVDや音楽用CD、SDカードの再生もお楽しみいただけます。

SDカード

AVCHD、MP3やJPEGファイルをSDカードに記録し、再生することができます。

また、BD-Live機能やBONUSVIEW機能に対応したBDビデオの再生では、PIPや字幕など、追加コンテンツをSDカードに保存すれば、より多くの再生機能を楽しむことができます。

AVCHD

ハイビジョン映像をビデオカメラの撮影で記録できる新フォーマット規格「AVCHD」の再生が可能です。

AVCHDは、DVD-RW/-RまたはSDカードに記録したものが再生できます。

BDアプリケーション機能

BD-J

Javaアプリケーション(BD-J)を含むBDビデオでは、本編の視聴に加え、ゲームや対話型コンテンツ等、インタラクティブな機能を楽しむことができます。

PIP:ピクチャー・イン・ピクチャー(BONUSVIEW)

PIP機能に対応したBDビデオの再生では、セカンダリー映像を含むシーンで[モード]を押すと、セカンダリー映像を別画面で表示させることができます。

BD-Live

本機は、BD-Live(BD-ROMプロファイル2.0)に対応しています。BD-Live機能を利用する際は、本機をインターネットに接続する必要があります。(BD-Live機能で利用できるコンテンツは、ディスクによって異なります。)

ポップアップメニュー

ポップアップメニューが含まれたBDディスクでは、再生中に[ポップアップメニュー/メニュー]を押すと再生画面上で様々な操作ができるポップアップメニューが表示されます。(ポップアップメニューの内容は、ディスクによって異なります。)

その他の再生機能

3Dブルーレイ対応

3D対応テレビにHDMIケーブルで接続することで、臨場感のある3D映像をお楽しみいただけます。

フルHD対応

本機は、1080pの解像度までサポートしています。フルHD映像を楽しむにはフルHD対応テレビが必要です。

1080pアップスケーリング

DVDの再生では、アップコンバート機能によって、標準解像度の画像を最大1080pまでアップスケール処理できる高詳細化を実現しました。

マルチチャンネルサラウンド音声

本機では、より現実に近い音声を楽しめるマルチチャンネルサラウンド音声出力に対応しています。

x.v.Color

“x.v.Color”で撮影した映像を再生することができます。“x.v.Color”の色空間、より天然に近い広色域の映像をお楽しみいただくためには、HDMIケーブル(Ver. 1.3)で“x.v.Color”対応のテレビに接続し、設定を行なう必要があります。(詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。)

HDMIについて

お持ちのテレビがフルHD対応の場合、ハイビジョン高画質映像をお楽しみいただくには、HDMI端子で接続いただくことをおすすめします。HDMI端子は映像と音声の両方を兼ねており、1本のケーブルで簡単に接続ができるので、お使いのアンプ等のオーディオシステムも簡単に接続することができます。(HDMIケーブルは、HDMIロゴ(HDMI)の表示があるケーブルをお使いください。)

また、HDMI端子を使用して接続した場合、以下の機能をお使いいただけます。

HDMIディープカラー

お使いのテレビがHDMIディープカラーに対応している場合、再生映像の色深度(ディープカラー)を拡張して出力し、より自然に近い色を再現することができます。

設定方法については、“HDMIディープカラー”(☞39ページ)をご覧ください。

HDMI機器制御

HDMI機器制御に対応しているテレビと本機をHDMI端子を使ってつなぐと、本機の動作とテレビの動作を連動して行なえる“HDMI機器制御”が使えます。詳しくは“HDMI機器制御について”(☞49ページ)をご覧ください。

1080プログレッシブ24フレーム

お持ちのテレビが1080プログレッシブ24フレームに対応している場合、BDでは、1080プログレッシブ24フレームとしてフィルム素材(1秒間に24フレームで撮影)を記録した高品質でより自然に近い映像を楽しむことができます。1080プログレッシブ24フレームをお楽しみいただくには、“HDMI解像度設定”を“自動”に設定してください。(☞39ページ)

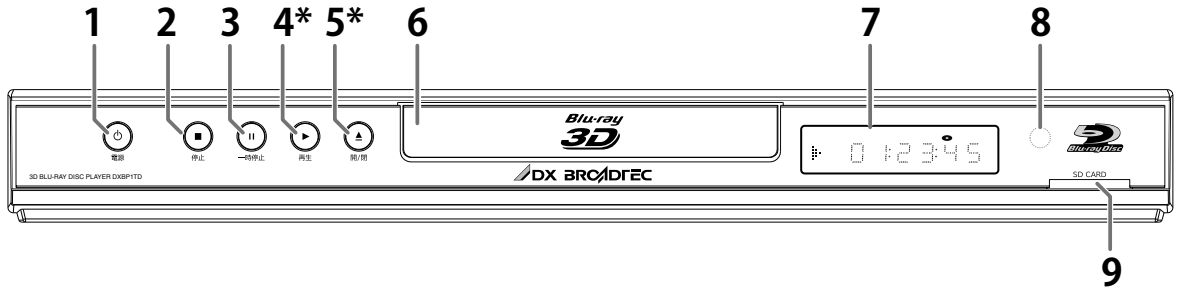
著作権保護システムについて

本機は、著作権保護技術であるHDCPを採用しています。接続できる機器は、HDCP機能に対応したものに限りません。

HDCP機能に対応していない機器との接続性は保証していません。接続する機器の取扱説明書も合わせてご確認ください。

各部の名前とはたらき

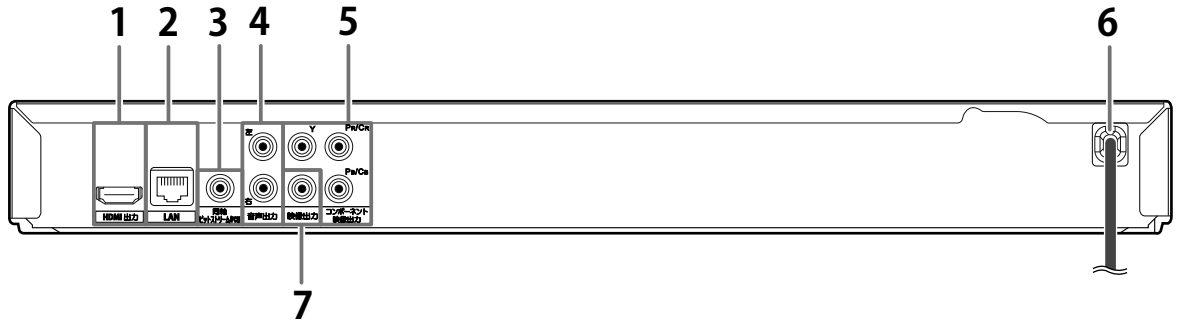
前面



* の記されているボタンを押しても、電源を入れることができます。

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 電源のボタン
● 電源を「入」、または本機をスタンバイ状態にします。
(本機の電源を完全に切るには、電源コードを抜いてください。)</p> <p>2 停止 ■ ボタン</p> <p>3 一時停止 ボタン</p> <p>4 再生 ▶ ボタン*</p> <p>5 開/閉 ▲ ボタン*</p> | <p>6 ディスクトレイ</p> <p>7 表示部
● “本体表示部”を参照してください。(☞ 14ページ)</p> <p>8 リモコン受光部</p> <p>9 SD CARDスロット</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

後面



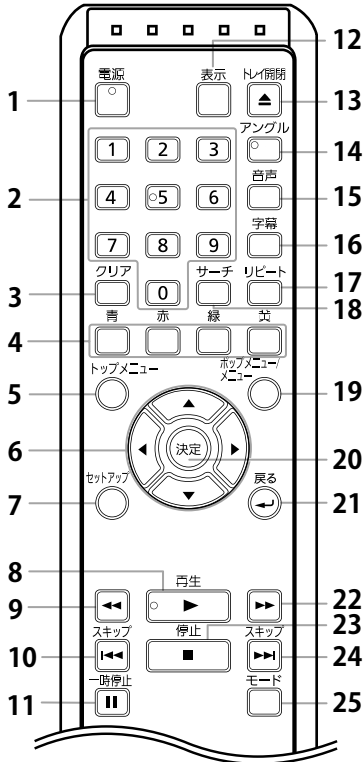
- | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 HDMI出力端子
● HDMI入力端子付きテレビをHDMIケーブルで接続します。</p> <p>2 LAN端子
● ネットワーク機器をLANケーブルで接続するとき 사용합니다。</p> <p>3 ビットストリーム/PCM (同軸) (デジタル音声出力端子)
● デジタル音声入力端子 (同軸) 付きのドルビーデジタルデコーダーやDTSデコーダー内蔵のAVアンプ等を同軸デジタルケーブルで接続します。</p> <p>4 音声出力端子
● テレビやアナログオーディオ機器等を音声ケーブルで接続します。</p> | <p>5 コンポーネント映像出力端子
● D映像入力端子付きテレビをコンポーネント⇄D端子変換ケーブルで接続します。</p> <p>6 電源コード
● 電源プラグをコンセントに差し込みます。
● 完全に本体の電源を切るには、電源コードをコンセントから抜いてください。</p> <p>7 映像出力端子
● テレビやアナログオーディオ機器等を映像ケーブルで接続します。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

お知らせ

- 端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

本機は基本的にリモコンで、操作、設定を行ないます。本書での操作説明は、リモコンでの操作を中心に説明しています。



1 電源ボタン

- 電源を「入」、または本機をスタンバイ状態にします。(本機の電源を完全に切るには、電源コードを抜いてください。)

2 数字ボタン(0~9)

- タイトル、チャプター、トラック、またはファイル番号を入力します。
- 数値を入力します。

3 クリアボタン

- 入力した情報を消したり、プログラム再生でプログラムしたトラックやファイルを消去する場合などに使用します。

4 青/赤/緑/黄ボタン

- BDコンテンツ内のアイテムを選択するときに使用します。
- ファイルリストまたはサムネイル画面表示中、ページを切り換えます。

5 トップメニューボタン

- トップメニューを表示します。

6 カーソルボタン▲/▼/◀/▶

- アイテムや設定を選択します。

7 セットアップボタン

- セットアップメニュー画面を表示します。

8 再生▶ボタン

- 再生またはレジューム再生します。
- 電源が「切」の場合は、電源を「入」にします。

9 早戻し◀◀ボタン

- 再生中に早戻しをします。

10 スキップ◀◀ボタン

- 再生中、一度押すことで再生しているタイトル、チャプター、トラック、またはファイルの始めに戻ります。
- 再生中、二度押すことで一つ前のタイトル、チャプター、トラック、またはファイルに戻ります。
- JPEGの再生中、一つ前のファイルに戻ります。

11 一時停止||ボタン

- 再生を一時停止します。
- 一時停止中、押すたびに1コマずつ再生します。

12 表示ボタン

- 再生中のメディアに関する情報を画面表示します。

13 トレイ開閉▲ボタン

- ディスクトレイを開閉します。
- 電源が「切」の場合は、電源を「入」にします。

14 アンクルボタン

- 複数のカメラアングルによる映像が記録されているディスクの再生中、アングルを切り換えます。
- JPEG画像表示中、時計回りに90度ずつ画像を回転します。

15 音声ボタン

- 音声設定画面を表示します。

16 字幕ボタン

- 字幕設定画面を表示します。

17 リピートボタン

- リピート設定画面を表示します。

18 サーチボタン

- サーチメニュー画面を表示します。

19 ポップメニュー/メニューボタン

- ポップアップメニューやディスクメニューを表示します。

20 決定ボタン

- 設定を決定したりメニュー画面で項目を選択します。

21 戻る←ボタン

- 一つ前の設定画面に戻ります。

22 早送り▶▶ボタン

- 再生中に早送りをします。
- 一時停止中にスロー再生をします。

23 停止■ボタン

- 再生を停止します。

24 スキップ▶▶▶ボタン

- 再生中、次のタイトル、チャプター、トラック、またはファイルにスキップします。

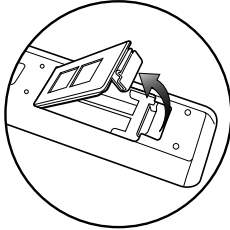
25 モードボタン

- BD、BD-DAV、DVD、DVD-VR、AVCREC、またはAVCHDの再生時、画質調整の設定画面を表示します。
- BD、BD-DAV、DVD、DVD-VR、AVCREC、CD、AVCHD、またはMP3の再生時、バーチャルサラウンドの設定画面を表示します。
- PIP(ピクチャー・イン・ピクチャー)機能を持つBDビデオの再生時、PIPの設定画面を表示します。
- JPEGの再生時、スライド効果または画像サイズの設定画面を表示します。
- BD挿入時の再生停止中、BD-HD音声設定の設定画面を表示します。
- 音楽用CDまたはMP3/JPEGが記録されたディスク・SDカード挿入時の再生停止中、プログラムまたはランダム再生画面を表示します。

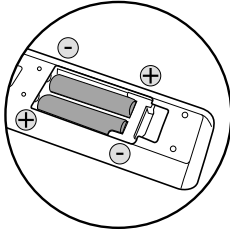
リモコン電池の入れかた

単3乾電池(1.5V 2個)をリモコンの乾電池収納部に入れます。

1) ふたをはずす

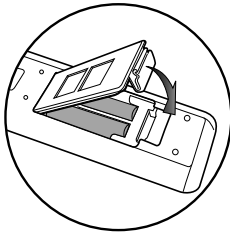


2) 電池を乾電池収納部の表示通り正しく入れる



- (+)(-)を確かめる
- (-)側を先に入れる

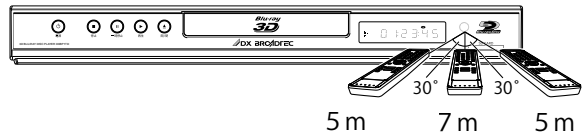
3) ふたを元通りにする



リモコンの操作方法

以下の点に注意してリモコンをご使用ください。

- リモコンとリモコン受光部の間に障害物を置かないでください。
- 日光や蛍光灯の強い光がリモコン受光部に当たっている場合、リモコンが動作しないことがあります。
- 違う電子機器のリモコンが、それぞれのリモコン操作の妨げとなる場合があります。ほかの電子機器のリモコンを本機の近くで使用しないようにしてください。
- リモコンの受信許容範囲内でご使用ください。
 (正面) 約7m以内
 (左右) 約30°の範囲で、約5m以内
 (上) 約15°の範囲で、約5m以内
 (下) 約30°の範囲で、約3m以内



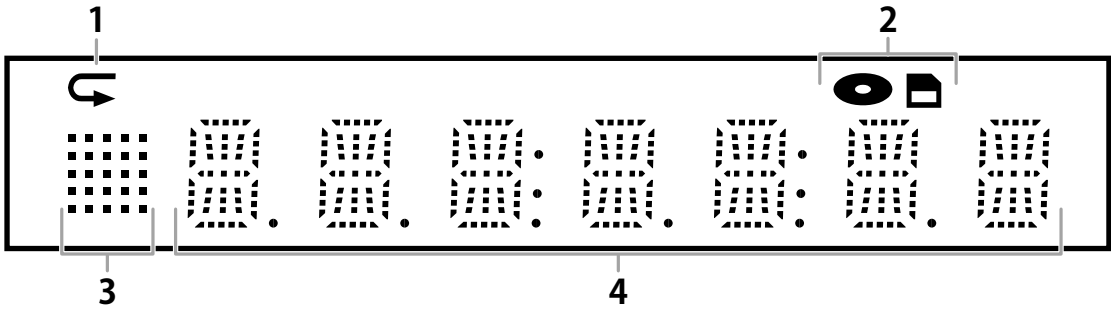
リモコンと乾電池についてのご注意

- リモコンに液状のものをかけないようにしてください。
- リモコンを落とさないようにしてください。
- リモコン操作ができる距離が短くなってきたら、乾電池が消耗しています。新しい乾電池に交換してください。(※付属の乾電池は動作確認用です。)
- 長期間使用しないときは、リモコンから乾電池を取り出してください。
- アルカリ乾電池とマンガン乾電池を一緒に入れてください。
- 古い乾電池と新しい乾電池を一緒に入れてください。

アルカリ乾電池ご使用のご注意

アルカリ乾電池は、外枠がプラス極になっているために、リモコンのマイナス極バネが乾電池のマイナス極と被覆(外枠の被覆がはがれている場合)に同時に接触した場合、乾電池そのものがショート(短絡)状態になり、ショートした部分が発熱しやけどする危険があります。アルカリ乾電池をご使用になる場合は、被覆がやぶれたり、はがれたりしていないものをご使用ください。

本体表示部

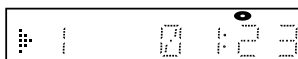


表示パネルの明るさは、セットアップメニュー画面の、“本体表示部調整” (☞ 48ページ) で調整することができます。

- 1 リpeat再生中、リpeatアイコンが表示されます。
- 2 メディアアイコンが表示されます。(ディスクモード/SDカードモード)
- 3 再生状態を表すアイコンが表示されます。下記の表をご覧ください。
- 4 ディスクの各種情報や再生経過時間などを表示します。

再生状態アイコン	説明
	再生中に表示します。
	停止中に表示します。
	一時停止中に表示します。
	早送り中に表示します。
	早戻し中に表示します。
	スロー再生中に表示します。

表示例



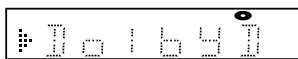
タイトルを再生中です。
タイトル番号と再生経過時間を表示しています。



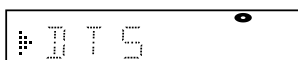
チャプターリピートモード中です。



ディスクの読み込み中です。



ドルビーデジタル音声で再生中です。



DTS音声で再生中です。

接続する

接続を始める前に

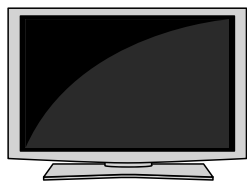
- 本機の電源プラグをコンセントから抜いた状態で、各機器との接続を行なってください。
- 接続する機器の電源を必ず「切」にしてください。
- 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

テレビとの接続

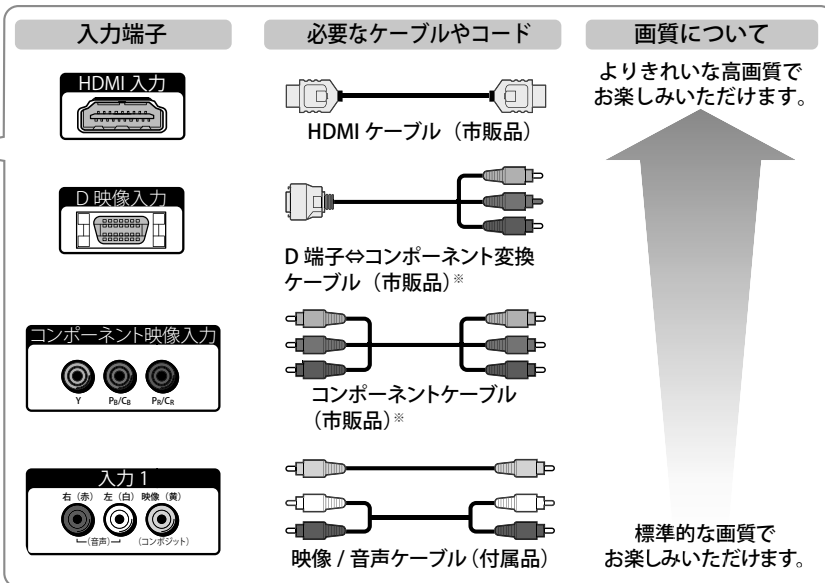
本機に接続するテレビの入力端子と画質について

本機と接続する機器の背面などにある、映像や音声の入力端子をご確認ください。映像をよりきれいにご覧いただいたり、ハイビジョン映像をそのままきれいな画質でお楽しみいただくには、HDMI入力に対応しているテレビ、モニターやプロジェクターが必要になります。**接続する機器がHDMI入力に対応しているときは、HDMI端子につなぐことをおすすめします。**本機とつなぐテレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。




接続するテレビや
モニターなどの機器



本機とつなぐには、右図のような、「HDMI入力」、「D映像入力」、「コンポーネント映像入力」や「入力1」といった、入力端子のいずれかが必要です。また、接続する入力端子によっては、専用のケーブルやコードが必要になります。



* 音声をつなぐときは、付属の音声ケーブルをお使いください。

 本機	 ビデオデッキなど	 テレビ
-------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

● **ご注意**
本機の映像出力は直接テレビに接続するか、AVアンプを経由してテレビに接続してください。本機からの映像をビデオデッキ、ビデオ内蔵テレビ、セレクターなどを通してご覧になると、コピー防止機能によって正常な映像にならないことがあります。

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

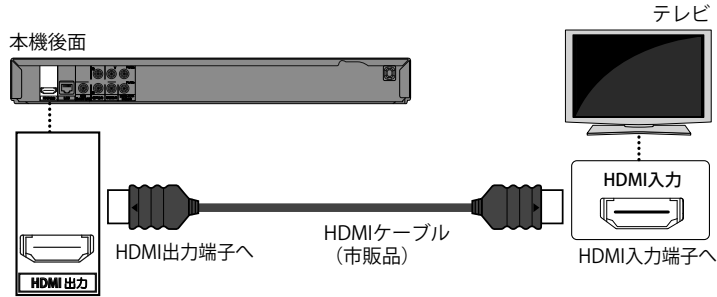
その他

接続する

HDMI入力端子付きテレビに接続する場合

本機のHDMI出力端子とテレビのHDMI入力端子を市販のHDMIケーブルでつなぎます。HDMI端子は、映像と音声の両方を兼ねているので、接続が1本のケーブルで済みます。

- HDMIケーブルは、HDMIロゴ(**HDMI**)の表示があるケーブルをお使いください。



HDMI機器制御に対応しているテレビと本機をHDMI端子を使ってつなぐと、本機の動作とテレビの動作を連動して行なえる"HDMI機器制御"が使えます。詳しくは"HDMI機器制御について" (P.49ページ)をご覧ください。

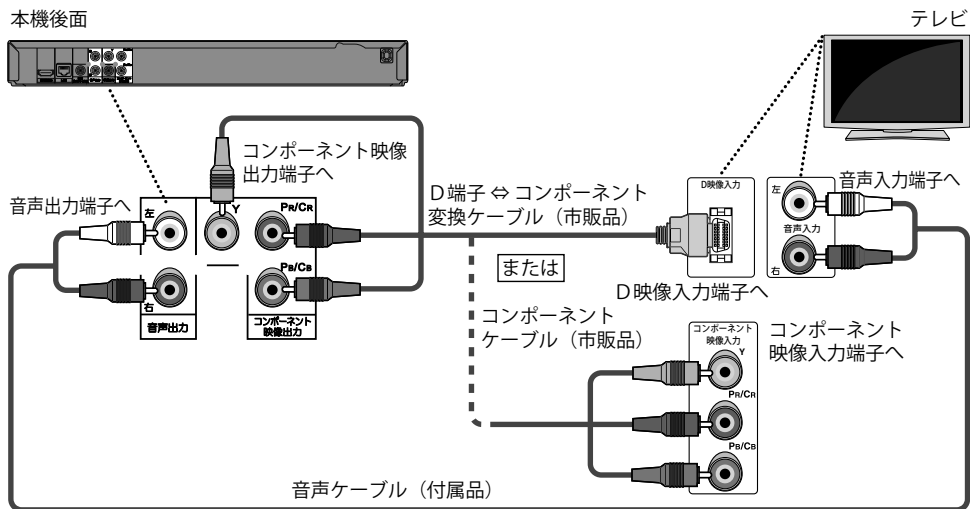
お知らせ

- 接続の際は、端子の形と方向を確かめ正しい方向でまっすぐ接続してください。
- お使いのテレビがHDCP非対応の場合、映像が正しく出力されない場合があります。
- 3D映像を再生する場合、3D対応テレビと本機を、3D対応HDMIケーブル(バージョン1.4)で接続してください。

D映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子付きテレビに接続する場合

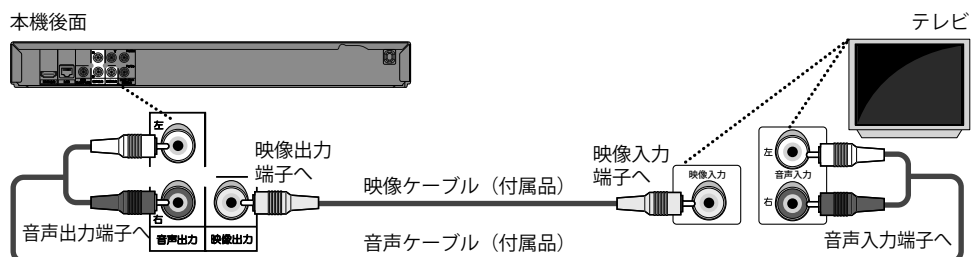
本機のコンポーネント映像出力端子とテレビのD映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子を市販のコンポーネント⇄D端子変換ケーブルまたはコンポーネントケーブルでつなぎます。

- 音声は本機の音声出力端子とテレビの音声入力端子を、付属の音声ケーブルでつないでください。



映像入力端子付きテレビに接続する場合

本機の映像・音声出力端子とテレビの映像・音声入力端子を、付属の映像/音声ケーブルでつなぎます。

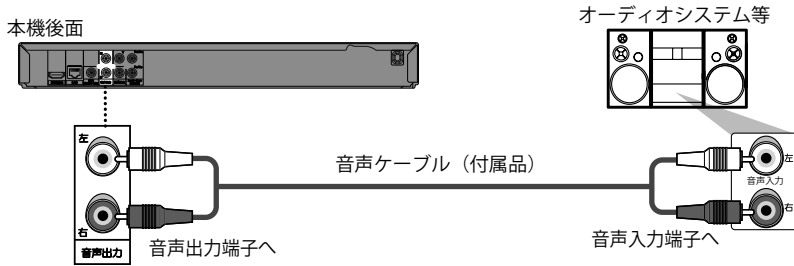


オーディオシステムとの接続

接続に関する詳しい情報は、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

アナログ 2チャンネル音声入力端子付きオーディオ機器に接続する場合

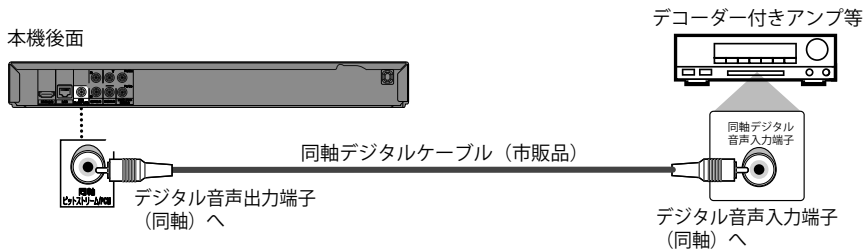
本機の音声出力端子とお使いのオーディオ機器の音声入力端子を付属の音声ケーブルでつなぎます。



デジタル音声入力端子付きアンプやドルビーデジタルまたはDTS対応デコーダー付アンプに接続する場合

本機のデジタル音声出力端子（同軸）とお使いのアンプのデジタル音声入力端子（同軸）を、同軸デジタルケーブル（市販品）でつなぎます。ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダー内蔵のアンプに接続することで、ドルビーデジタルやDTS®の音声収録されたディスクの再生時に、迫力と臨場感あふれるサラウンド音声をお楽しみいただけます。

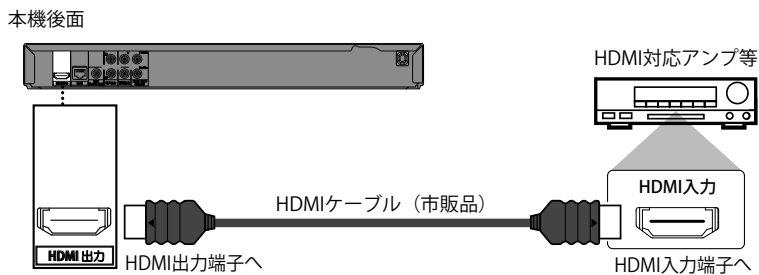
- デジタル音声出力の設定については、「デジタル音声出力設定」(☞ 43ページ)をご覧ください。



HDMI入力端子付きオーディオ機器に接続する場合

本機のHDMI出力端子とオーディオ機器のHDMI入力端子を市販のHDMIケーブルでつなぎます。

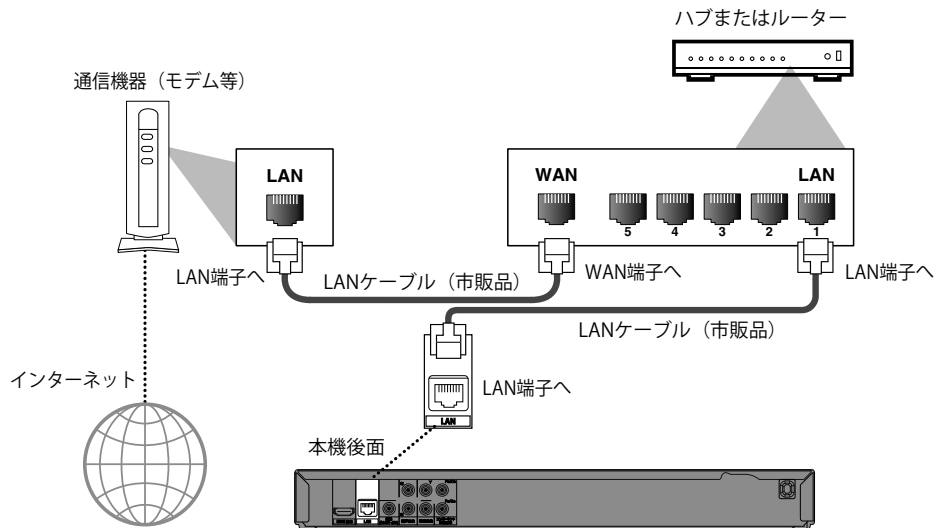
- HDMI出力の音声設定については、「HDMI音声出力設定」(☞ 42ページ)をご覧ください。



ネットワーク接続

本機をインターネットに接続することで、BD-Live機能やネットワークアップデートを使用することができます。

- ネットワークアップデートの詳細については、「ネットワークアップデート」(☞ 54ページ)をご覧ください。
- BD-Liveの詳細については、「BD-Liveについて」(☞ 33ページ)をご覧ください。



お知らせ

- 詳しい接続方法については、お使いの通信機器の取扱説明書をご覧ください。
- 接続が完了したら、「ネットワーク設定」(☞ 50ページ)で必要な設定を行なってください。
- LAN端子にはLANケーブル以外のケーブルを接続しないでください。故障の原因になります。
- ルーターは通信速度が10BASE-Tまたは100BASE-TXに対応しているルーターを使用してください。
- 本機とパソコンのLAN端子とは直接つながないでください。故障の原因になります。

接続が完了したら

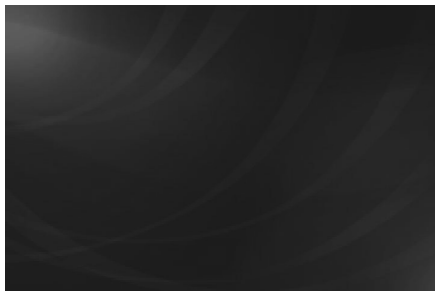
本機とテレビの電源を入れ、テレビのチャンネルを本機を接続した外部入力に切り換えてください。

1 [電源]を押して本機の電源を入れる

2 テレビの電源を入れる

3 テレビのチャンネルを本機を接続した外部入力に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 正しい入力に切り換えると、オープニング画面が表示されます。



お知らせ

- HDMIケーブルを使用してテレビを接続している場合、オープニング画面が表示されるまで少し時間がかかることがあります。

再生に関する情報

再生を始める前に、以下の情報をお確かめください。

再生できるディスクとファイル

本機で再生できるディスクとファイルは次の通りです。

再生できるディスク	ロゴ	ディスク盤の大きさ
BDビデオ	  	12cm片面1層、2層
ブルーレイ3D/ ブルーレイ3D専用 ディスク		
BD-RE (Ver. 2.1)		12cm / 8cm 片面1層、片面2層
BD-R (Ver. 1.1 / 1.2 / 1.3)		12cm / 8cm 片面1層、片面2層
DVDビデオ		12cm片面1層、2層 12cm両面2層 8cm片面1層
DVD-RW		12cm / 8cm 片面1層
DVD-R		12cm / 8cm 片面1層、片面2層
CD-DA (音楽用CD)		12cm / 8cmディスク
CD-RW	 	12cm / 8cmディスク
CD-R	 	12cm / 8cmディスク
ピクチャーCD	-	12cmディスク
DTS-CD	-	12cmディスク

再生できるファイル	メディア
AVCHD ※	DVD-RW/-R、 SDメモリーカード、 SDHCメモリーカード、 miniSDカード、microSDカード
MP3	BD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-R、 SDメモリーカード、 SDHCメモリーカード、 miniSDカード、microSDカード
JPEG	

※すべてのAVCHDの再生を保証するものではありません。

本機で再生できる記録方式について

BD-RE/-Rディスク

本機では、BDMV (Blu-ray Disc Movie) モードまたはBD-RE (Blu-ray Disc Audio/Visual) モードで記録されたBD-RE/-Rを再生することができます。また、ファイナライズ(クローズ)を行っていないBD-Rは再生できないことがあります。なお、ディスクの記録状態によってはディスクが読み取れなかったり、正常に再生できないことがあります。

DVD-RW/-Rディスク

本機では、AVCRECモード、VR(ビデオレコーディング)モードまたはビデオモードで記録されたDVD-RW/-R、VRモードで記録されたCPRM Ver1.2対応のDVD-RWを再生することができます。また、ファイナライズを行っていないディスクは再生できません。なお、ディスクの記録状態によってはディスクが読み取れなかったり、正常に再生できないことがあります。

リージョンコードおよびカラー方式について

- 本機で再生できるBDビデオのリージョンコードはA(またはAを含むもの)です。



- 本機で再生できるDVDビデオのリージョンコードは2またはALLです。



- 本機と異なるリージョンコードのディスクは再生できません。
- 本機では、NTSC(日本のテレビ方式)以外の方式で録画されたディスクは再生できません。

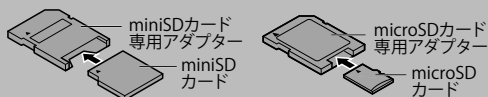
再生できるSDカード

本機で再生できるSDカードは次の通りです。

再生できるカードの種類	再生できるファイル
SDメモリーカード(8MB~2GB)	● AVCHD・MP3・JPEG ● BD用ピクチャー・イン・ピクチャーや字幕などのBDプロファイル2.0/1.1
SDHCメモリーカード(4GB~8GB)	
miniSDカード(8MB~2GB)	
microSDカード(8MB~2GB)	

SDカードについて

- 本機は、ファイルシステムがFAT12またはFAT16のSDメモリーカード、およびFAT32のSDHCメモリーカードに対応しています。(NTFSファイルシステムには対応していません。)
- SDカードをパソコンでフォーマット(初期化)すると、本機で使用できない場合があります。このようなときは、本機で再度フォーマットしてください。詳しくは“初期化”(☞ 55ページ)をご覧ください。
- 本機はminiSDHCカードおよびmicroSDHCカードには対応していません。
- miniSDカードまたはmicroSDカードには、専用のアダプターが必要となります。



- 本製品の一部分は、ARIS/SOLANA/4Cの許諾のもと提供され、著作権法によって保護されています。
- SDカードはケースに入れて保管してください。
- SDカードは分解したり、修理しないでください。
- SDカードの金属端子(記録)部を指などで直接触らないでください。
- SDカードに付いているラベルを剥がさないでください。また、ラベルやシール等を貼らないでください。
- 本機で認識できるSDカードに記録されたフォルダ名は全角4文字です。全角4文字を超えたフォルダ名は、4文字目までしか表示されません。

再生できないメディアとファイル

以下のディスクおよびファイルは本機で再生できません。

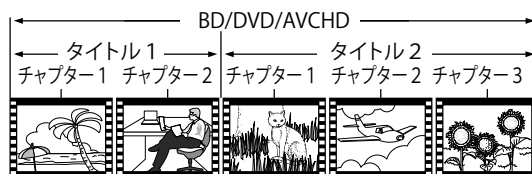
- CD-ROM
- CD-I
- DVD-RAM
- VSD
- DVD-audio
- video CD
- HD DVD
- SVCD
- デュアルディスク
- 未ファイナライズのディスク
- BD-RE (Ver. 1.0)
- DivX®/Windows Media™Audioファイルを記録したBD/DVD/SDメモリーカード
- BD / DVDハイブリッドディスク (BD層のみ再生可)
- AVCHDファイルを記録したBD-RE/-R
- スーパーオーディオCD(ハイブリッドディスクで、CD層に記録された音声のみ再生可能)

著作権について

- ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。
- 本製品は、著作権保護技術を採用しており、米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。
- 本機は、Rovi Corporationならびに他の権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権で保護された著作権保護技術を採用しています。この著作権保護技術の使用はRovi Corporationの認可が必要であり、Rovi Corporationの認可なしでは、一般家庭用または他のかぎられた視聴用だけに使用されるようになっていきます。改造または分解は禁止されています。

ディスクおよびSDカードの構成について

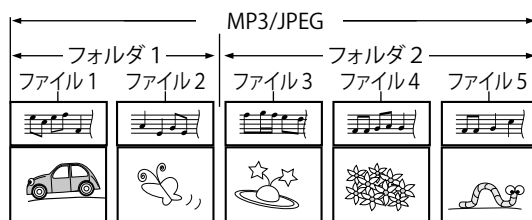
BDビデオ、DVDビデオ、AVCHDは、いくつかの大きな区切り(タイトル)と小さな区切り(チャプター)に分けられています。それぞれの区切りに番号が割り当てられ、これらの番号をタイトル番号、チャプター番号と呼びます。



音楽用CDは、楽曲ごとなどのいくつかの区切り(トラック)に分けられています。それぞれの区切りに番号が割り当てられ、これらの番号をトラック番号と呼びます。



BD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-RやSDカードに記録されたMP3、JPEGファイルは、いくつかの大きな区切り(フォルダ)と小さな区切り(ファイル)に分けられています。ファイルはフォルダに、フォルダはいくつかの階層に分けて記録させることができます。



再生中の情報を表示する

再生中のメディアに関する情報(現在再生中のチャプターや再生経過時間など)をテレビ画面に表示させて、確認することができます。

- 1 再生中に[表示]を押す**
 - 現在の再生状態が表示されます。
- 2 お好みの情報が表示されるまで、繰り返し[表示]を押す**
 - 画面表示の詳細については、“画面表示の切り換わりかた”(☞以下)および“画面表示の表示例”(☞以下)をご覧ください。
- 3 通常画面に戻すには、画面表示が消えるまで繰り返しかえし[表示]を押す**

画面表示の切り換わりかた



- 切 → タイトル / チャプター情報
 → タイトル情報 (再生経過時間)
 → タイトル情報 (再生残り時間)
 → 音声デコード情報 → 切



- 切 → チャプター情報 (再生経過時間)
 → チャプター情報 (再生残り時間)
 → タイトル情報 (再生経過時間)
 → タイトル情報 (再生残り時間)
 → 音声デコード情報 → 切



- 切 (トラック情報 (再生経過時間))
 → トラック情報 (再生残り時間)
 → ディスク情報* (再生経過時間)
 → ディスク情報* (再生残り時間)
 → 切 (トラック情報 (再生経過時間))

*プログラム再生中 / ランダム再生中は表示できません。

MP3

- 切 (ファイル情報 (再生経過時間))
 → ファイル名情報
 → 切 (ファイル情報 (再生経過時間))

JPEG

- 切 → ファイル情報 (ファイル番号)
 → ファイル名情報 → 切

画面表示の表示例

チャプター情報

BD / BDAV / AVCREC / AVCHDの再生時:



DVD/DVD-VRの再生時:



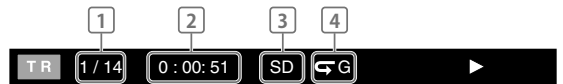
- 1 現在再生中のタイトル番号
- 2 現在再生中のチャプター番号 / タイトルに含まれる合計チャプター数
- 3 現在のリピート設定 (リピート設定中のみ表示)
(C: チャプターリピート / T: タイトルリピート)
- 4 アングルアイコン (マルチアングル対応時に表示)
- 5 現在の再生状態
- 6 現在再生中のディスクの再生方式 (3D再生時のみ表示)
- 7 現在再生中のチャプターの再生経過時間 (または再生残り時間)

タイトル情報



- 1 現在再生中のタイトル番号 / ディスクまたはSDカードに含まれる合計タイトル数
- 2 現在再生中のタイトルの再生経過時間 (または再生残り時間)

トラック / ファイル情報



- 1 現在再生中のトラック (ファイル) 番号 / 合計トラック (ファイル) 数
- 2 現在再生中のトラック / ファイルの再生経過時間 (または再生残り時間) (JPEGファイルを除く)
- 3 SDカードの再生中表示
- 4 現在のリピート設定 (リピート設定中のみ表示)
(T: トラックリピート / G: グループリピート / A: オールリピート)

ディスク情報



- 1 現在再生中のトラック番号 / ディスクに含まれる合計トラック数
- 2 現在再生中のディスクの総再生経過時間 (または総再生残り時間)

ご使用になる前に

接続する

再生する


設定

その他

ファイル名情報



1 メディアアイコンとファイル名

 : MP3ファイル

 : JPEGファイル

音声デコード情報



1 出力中の音声フォーマット

再生の前に

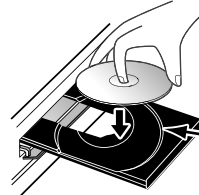
本機の操作、設定のしかた

本機は基本的にリモコンで、操作、設定を行いません。本書での操作説明は、リモコンでの操作を中心に説明しています。

ディスクの入れかた

1 [トレイ開閉 ▲]を押し、ディスクトレイを開く

2 ディスクを再生したい記録面を下にして、ディスクトレイに置く



トレイガイドに合わせて
水平に載せる

- “再生できるディスクとファイル” (☞ 19ページ) で、本機で再生できるディスクをお確かめください。

3 [トレイ開閉 ▲]を押し、ディスクトレイを閉じる

ディスクの読み込みが始まります。
(読み込みに時間がかかることがあります。)

ディスクを取り出すには：

[トレイ開閉 ▲]を押し、ディスクトレイを開き、ディスクを取り出してください。ディスクを取り出したあとは [トレイ開閉 ▲]を押し、ディスクトレイを閉じてください。

SDカードを再生する

AVCHD MP3 JPEG

本機では、SDカードに記録されたAVCHD / MP3 / JPEGファイルを再生できます。

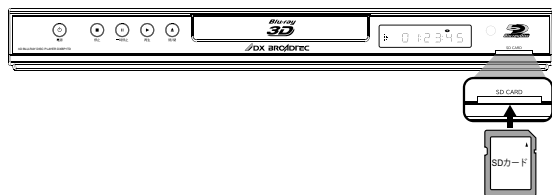
また、SDカードを利用して以下の機能を楽しむことができます。

- BD-ROMプロファイル1.1の機能(詳しくはディスクの説明書をご覧ください。)
- BD-Live機能(BD-ROM プロファイル2.0)

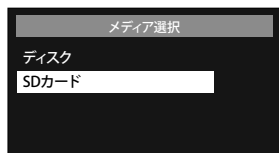
BD-Liveについては、「BD-Liveについて」(☞ 33ページ)をご覧ください。

1 SDカードのラベル面を上にして水平に持ち、本体前面のスロットにカチッと音がするまで挿入する

- ディスク動作中でない場合は、自動で「メディア選択」画面が表示されます。

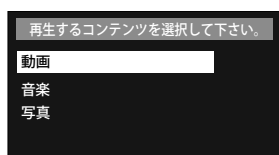


2 [▲/▼]で「SDカード」を選び、[決定]を押す



- コンテンツ選択画面が表示されます。
- 1種類のファイルのみ書き込まれたSDカードの場合、手順4に進んでください。

3 [▲/▼]で「動画」、「音楽」または「写真」を選び、[決定]を押す



- 「音楽」を選ぶとMP3、「写真」を選ぶとJPEGの「ファイルリスト」が自動で表示されます。
- AVCHDの再生は、「動画」を選択した直後から始まります。(AVCHDではファイルリストは表示されません。)

4 [▲/▼]でフォルダまたはファイルを選び、[決定]または[再生▶]を押す

- ファイルを選択し[決定]を押すと、再生が始まります。
- ファイルがフォルダの中にある場合は、再生したいファイルを選ぶまで手順4を繰り返してください。
- 前後の階層に移動するときは、[◀/▶]を押してください。
- 再生を停止するには、[停止■]を押してください。

SDカードを取り出すには：

再生が停止されていることを確認し、軽く奥に押しつけてから引き抜いてください。

お知らせ

- 「メディア選択」画面は以下の場合に表示が消えます。
 - スクリーンセーバーが実行されたとき
 - [戻る◀]を押したとき
 - セットアップメニュー画面を表示したとき
- 操作を行なう前に「メディア選択」画面が消えた場合、「メディアを選択する」(☞ 24ページ)を参照して「メディア選択」画面を表示してください。
- SDカードのファイル再生中にカードを抜いたり、本機をスタンバイ状態にしないでください。ファイルが壊れたり、故障の原因になることがあります。
- SDカード内のフォルダやファイルを、パソコン上で消さないでください。SDカードをパソコンでフォーマット(初期化)すると、本機で使用できない場合があります。このようなときは、本機で再度フォーマットしてください。詳しくは、「初期化」(☞ 55ページ)をご覧ください。
- フォルダ名やファイル名に下記の認識できない文字が使用されている場合、フォルダ名、ファイル名が正しく表示できないことがあります。
 - 認識できない文字：[.,"="+[];/\:]¥
- 本機では、SDカードは999フォルダ、9999ファイルまで認識できますが、構成によっては、記述の数値まで表示しない場合があります。
- 本機は、SDカード内で9階層までのフォルダを認識することができます。(それ以下の階層のフォルダは認識できません。)
- SDカードでは、拡張子が「.jpg (.JPG)」以外のJPEGファイルは認識されません。

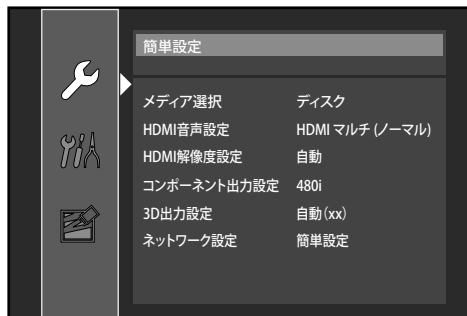
メディアを選択する

ディスクとSDカードの両方が本機に挿入されているとき、再生するメディアを以下の手順で選択します。

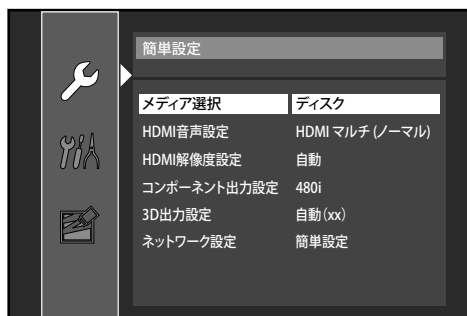
"メディア選択"画面はSDカード挿入時のみ表示可能になります。

1 再生の停止中に[セットアップ]を押す

2 [▲/▼]で を選び、[決定]を押す



3 [▲/▼]で"メディア選択"を選ぶ



4 [決定]を繰り返し押し、お好みのメディアを選ぶ

5 [セットアップ]を押し、設定を完了する

本機をスタンバイ状態にすると、"メディア選択"が"SDカード"から"ディスク"に切り換わります。

BD、DVD、AVCHDを再生する



1 ディスクを入れる

- ディスクの入れかたは、"ディスクの入れかた" (☞ 22ページ) を参照してください。

2 自動的に再生を開始します。

- 自動的に再生を開始しない場合は、[再生 ▶] を押してください。
- ディスクによっては、メニュー画面が表示されるものがあります。ディスクのメニュー画面については、"ディスクに記録されているメニューを使う" (☞ 25ページ) を参照してください。

再生を一時停止するには：

[一時停止 ■]を押す

通常の再生に戻すには：

[再生 ▶]を押す

再生を停止するには：

[停止 ■]を押す


(※再生を停止した場所のレジューム情報が記憶されます。)

レジューム機能について

レジューム情報が記録されているときに[再生 ▶]を押すと、再生を停止した場所から再生が始まります。

- BD-J対応ディスクは、ディスクによってレジューム機能を利用できないものがあります。
- "ディスク"モード選択中、レジューム情報は以下の場合に消えます。
 - レジューム情報が記録されているときに、再度 [停止 ■]を押す
 - 視聴制限レベルが変更されたとき
 - ディスクトレイを開けたとき
 - 3Dブルーレイで3D再生を停止中に、3D出力を2Dに変更したとき
- "SDカード"モード選択中、レジューム情報は以下の場合に消えます。
 - レジューム情報が記録されているときに、再度 [停止 ■]を押す
 - SDカードを本機から抜いたとき
 - 本機をスタンバイ状態にしたとき

お知らせ

- ディスクや本機により禁止されている操作が行なわれると、操作中にテレビ画面の右上に  が表示されることがあります。
- 2層ディスクの場合、レイヤーの変わり目で一瞬画像が静止することがありますが、故障ではありません。
- ソフト制作者の意図により、本書の説明どおりに動作しないディスクがあります。詳しくは、それぞれのディスクの説明書をご覧ください。
- 一時停止中の映像にプレが生じる場合は、再生を一旦停止してから、"スチルモード"を"フィールド"に切り換えてください。(☞ 40ページ)
- すべてのAVCHDの再生を保証するものではありません。

ディスクに記録されているメニューを使う



複数のタイトルが入っているBDビデオ、DVDビデオ、AVCHDでは、トップメニューからお好みのタイトルを選択し再生することができます。また、DVDビデオにはディスクメニュー、BDビデオにはポップアップメニューと呼ばれる特別なメニューが用意されているものがあり、ディスクのいろいろな操作がメニュー上で行なえます。(※メニューの内容はディスクにより異なります。)

トップメニューを使うとき (BDビデオ / DVDビデオ / AVCHD)

- 1 [トップメニュー]を押す
 - トップメニューが表示されます。
- 2 [▲ / ▼ / ◀ / ▶]でお好みの項目を選び、[決定]を押す
- 3 [トップメニュー]を押してトップメニューの表示を消す

ディスクメニューを使うとき (DVDビデオ)

- 1 [ポップメニュー/メニュー]を押す
 - ディスクメニューが表示されます。
- 2 [▲ / ▼ / ◀ / ▶]でお好みの項目を選び、[決定]を押す
- 3 [ポップメニュー/メニュー]を押してディスクメニューの表示を消す

ポップアップメニューを使うとき (BDビデオ)

ポップアップメニューは再生中の映像の前面に表示されます。

- 1 再生中に[ポップメニュー/メニュー]を押す
 - ポップアップメニューが表示されます。
- 2 [▲ / ▼ / ◀ / ▶]でお好みの項目を選び、[決定]を押す
- 3 [ポップメニュー/メニュー]を押してポップアップメニューの表示を消す

お知らせ

- メニューの内容や操作方法はディスクにより異なります。詳しくはディスクの説明書をご覧ください。
- SDカードに記録されたAVCHDも、ディスクと同様にトップメニューを表示できます。
- すべてのAVCHDの再生を保証するものではありません。

BD-REモードやAVCRECモード、VRモードで記録されたディスクを再生する

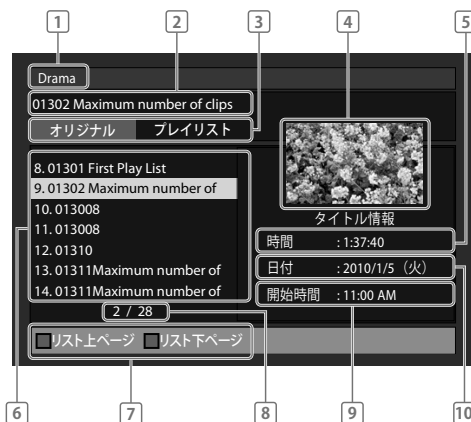


BD-REモードで記録されたBD-RE/-RディスクやAVCRECモード、VRモードで記録されたDVD-RW/-Rディスクにプレイリストを設定しているときは、“オリジナル”または“プレイリスト”を選んで再生することができます。

- 1 再生の停止中に [ポップメニュー/メニュー]を押す
 - タイトルリストが表示されます。

- 2 [◀ / ▶]で“オリジナル”または“プレイリスト”を選ぶ

オリジナルを選択した場合：



- 1 ディスク名
- 2 選択中のタイトル名
- 3 “オリジナル”または“プレイリスト”
- 4 サムネイル画像
(選択中のタイトルを小画面で最初から再生します。)
- 5 選択中タイトルの総再生時間
- 6 タイトル名のリスト表示
- 7 操作ガイド：[青] リスト上ページへ移動
：[赤] リスト下ページへ移動
- 8 現在のページ数 / 合計ページ数
- 9 選択中タイトルの録画を開始した時間
- 10 選択中タイトルを録画した日付

- 3 [▲ / ▼]でお好みのタイトルを選び、[決定]または[再生 ▶]を押す
 - 再生が始まります。

お知らせ

- BDAVモードやAVCRECモード、VRモードは、各モードに対応しているディスクを使ってプログラム編集などを行なう、BD/DVDレコーダーならではの機能を楽しむ記録フォーマットです。
- BD/DVDレコーダーで録画したディスクの場合、録画して作られたタイトル(番組)をオリジナルと呼びます。
- オリジナルをもとに編集用に作成したタイトルをプレイリストと呼びます。プレイリストが作成されていないディスクでは、オリジナルのみを表示します。
- ファイナライズされていないBD-RE/-Rや、DVD-RW/-Rは再生できません。
- タイトルリスト画面は記録したBDレコーダー、DVDレコーダーやディスクによって異なります。
- ディスク名、タイトル名では、認識されない記号などの文字は*(アスタリスク)で表示されます。また、記録方式によっては、認識できる文字であっても*(アスタリスク)で表示される場合があります。

音楽用CD、MP3、JPEGを再生する



1 音楽用CDや、MP3 / JPEGファイルを書き込んだディスクを入れる

- コンテンツ選択画面が表示されます。
- 音楽用CDや、1種類のファイルのみ書き込まれたディスクの場合、手順3に進んでください。
- SDカードでの再生方法は“SDカードを再生する”(23ページ)をご覧ください。

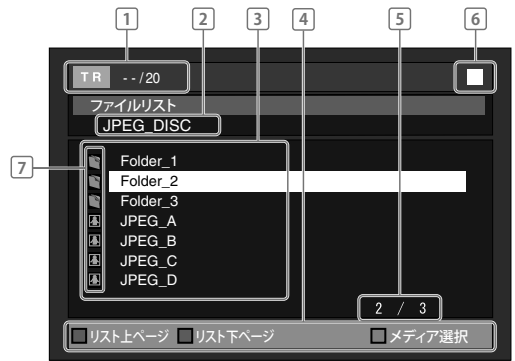
2 [▲ / ▼]で“動画”、“音楽”または“写真”を選び、[決定]を押す

- “音楽”を選ぶとMP3、“写真”を選ぶとJPEGの“ファイルリスト”が自動で表示されます。

3 [▲ / ▼]でトラック、フォルダまたはファイルを選び、[決定]または [再生 ▶]を押す

- トラックまたはファイルを選択し[決定]を押すと、再生が始まります。
- ファイルがフォルダの中にある場合は、再生したいファイルを選ぶまで手順3を繰り返してください。
- 前後の階層に移動するときは、[◀ / ▶]を押してください。(MP3 / JPEGのみ)
- ファイルのサイズが大きい場合、スライドショーで見るととき、画像の表示時間が長くなる場合があります。
- 再生を停止するには、[停止 ■]を押してください。

JPEGファイルが入っているディスクの場合：



- 1 音楽用CD : トラック情報
MP3 / JPEG : ファイル情報
- 2 音楽用CD : “CD-DA”の固定表示
MP3 / JPEG : 現在再生中のディスク名またはフォルダ名
- 3 音楽用CD : トラック名・時間のリスト表示
MP3 / JPEG : フォルダ名またはファイル名のリスト表示
- 4 操作ガイド : [青] リスト上ページへ移動
: [赤] リスト下ページへ移動
: [黄] “メディア選択”へ戻る

5 現在のページ数 / 合計ページ数

6 現在の再生状態

7 メディアアイコン



4 [停止 ■] を押し、再生を停止する

再生可能なファイル形式

本機では、以下のファイル形式のMP3 / JPEGを再生できます。(異なるファイル形式のMP3 / JPEGは再生できない場合があります。)

MP3	
サンプリング周波数	32 kHz、44.1 kHz または 48 kHz
ビットレート	112 kbps - 320 kbps

JPEG	
画像サイズ	最大：2,560 × 1,900ピクセル (サブサンプリング 4:4:4) 5,120 × 3,840ピクセル (サブサンプリング 4:2:2以下) 最小：32 × 32ピクセル
ファイルの容量	最大：12MB

お知らせ

- BD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-Rではディスク名 / フォルダ名 / ファイル名がひらがな、カタカナ、漢字や英数字、記号で表示されます。認識できない文字は * (アスタリスク) で表示されます。
- 記録したときの条件によっては、一覧に表示されているフォルダやファイルでも再生できないことがあります。
- 高解像度で記録された場合など、JPEGファイルの容量が大きいと、画面表示に時間がかかることがあります。
- プログレッシブ形式で記録されたJPEG形式の画像は再生できません。
- 本機では、BD-RE/-R、DVD-RW/-Rは999フォルダ、9999ファイルまで、CD-RW/-Rでは255フォルダ、999ファイルまで認識できますが、構成によっては、記述の数値まで表示しない場合があります。
- 本機は、BD-RE/-R、DVD-RW/-Rで9階層まで、CD-RW/-Rで8階層までのフォルダを認識することができます。(それ以下の階層のフォルダは認識できません。)
- BD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-Rでは、下記の拡張子以外のMP3 / JPEGファイルは認識されません。
- MP3 : ".mp3 (.MP3)"
- JPEG : ".jpg (.JPG)"または".jpeg (.JPEG)"
- ディスクにAVCHDまたは、AVCRECが混在している場合、AVCHDまたは、AVCRECを除くほかのファイルの再生はできません。(AVCHDとAVCRECがディスクに混在している場合、両方のファイルの再生が可能です。)
- マルチボーダーで記録したBD-RE/-Rの場合、追加して記録した部分の再生ができません。
- マルチボーダーで記録したDVD-RW/-Rの場合、追加して記録した部分の再生ができない場合があります。

3Dブルーレイを再生する



3D対応テレビとHDMIケーブルで接続すると、市販の3D映像ソフトを臨場感のある映像でお楽しみいただけます。以下の準備が必要になりますので、あらかじめご用意ください。

- 3D対応テレビ
- 3D対応HDMIケーブル (バージョン1.4) (市販品)
- 3D対応専用グラス (市販品)
- 3D映像ソフト (BD)

本機はフレームシーケンシャル3D映像以外に、サイドバイサイドの3D映像も再生できます。3Dの出力設定については、(☞ 39ページ)をご覧ください。

1 本機を3D対応テレビと3D対応HDMIケーブルで接続します。

- テレビとの接続は“HDMI入力端子付きテレビに接続する場合”(☞ 16ページ)をご覧ください。

2 24ページの“BD、DVD、AVCHDを再生する”を参照し、再生してください。

注意

- 光過敏の既往症のある方、心臓に疾患のある方、体調不良の方は3D映像を視聴しないでください。病状悪化の原因になることがあります。
- お子様の場合は、疲労や不快感などに対する反応がわかりにくいので、急に体調が悪くなることがあります。お子様が視聴の際は、保護者の方が目の疲れがないか、ご注意ください。
- 3D映画などを視聴する場合は一作品の視聴を目安に適度に休憩をとってください。長時間の視聴による視覚疲労の原因になることがあります。
- 薬剤を常用している場合は、映像視聴による影響を強く受ける可能性があります。何らかの異常を感じた場合には使用を中止してください。
- 3D (立体) 映像を視聴したとき像が二重に見えたり、立体像が感じにくい場合は、直ちに使用を中止し、表示機器やソフトの設定に間違いがないか確認して下さい。それでも二重像に見えたり違和感を感じる等、立体視が成立しない場合は、利用を中止してください。
- 3D映像は適正な位置・適正な姿勢で視聴することをお勧めいたします。

ピクチャーCDを再生する

JPEG

本機はピクチャーCDを再生することができます。これらのCDを再生することで、写真の画像をテレビで楽しむことができます。ピクチャーCDは、従来の銀塩フィルムカメラで撮った写真をデジタルデータに変換してCD-ROMに書き込むサービスです。本機は7.0以前のバージョンに対応しています。ピクチャーCDに関する詳細は、ピクチャーCDのサービスを取り扱っている店頭にお問い合わせください。

1 ピクチャーCDを入れる

- サムネイル画面 (画像一覧) が自動で表示されます。
- すべてのメニュー項目が表示されるまで時間がかかることがあります。



- 1 ファイル情報
- 2 現在のページ数 / 合計ページ数
- 3 操作ガイド: [緑] リスト前ページへ移動
:[黄] リスト次ページへ移動
- 4 現在の再生状態

2 [▲/▼/◀/▶]で見たい画像を選び、**[決定]**または**[再生▶]**を押す

- 選択された画像から再生が始まります。画像は10秒間表示され、次の画像に移ります。
- 画像を表示しているときは、**[アングル]**を押すごとに時計回りに90度ずつ画像が回転します。

3 **[停止■]**を押し、再生を停止する

- サムネイル画面に戻ります。

最初の画像を選択するには：
[トップメニュー]を押す

最後に再生した画像を選択するには：
[ポップメニュー/メニュー]を押す

お知らせ

- ファイルのサイズが大きい場合、スライドショーで見るとき、画像の表示時間が長くなる場合があります。
- ピクチャーCDの再生中に**[モード]**を繰り返し押すと、スライド効果と画像サイズが設定できます。詳しい設定方法については、“スライド効果を設定する” (☞ 28ページ)と“画像サイズを調整する” (☞ 28ページ)をご参照ください。

スライド効果を設定する

JPEG

JPEGファイルの画像をスライドショーで見るときに、スライドショーで切り換わる画像移行の効果が設定できます。

1 再生中に**[モード]**を押し、**JPEG** スライド効果設定画面を表示する

- 現在の設定状態が表示されます。

JPEG カット イン/アウト

2 **[決定]**または**[◀/▶]**で設定を切り換える

JPEG フェード イン/アウト

- “**カットイン/アウト**” : 完全な画像を一度に表示し、消去します。
- “**フェードイン/アウト**” : 画像を徐々に表示し、消去します。

3 **[戻る←]**を押し、設定を完了する

画像サイズを調整する

JPEG

お使いのテレビによって、表示されるJPEGファイルの端が切れるような場合に、画像を少し小さくして表示します。

1 再生中に**[モード]**を2回押し、**画像サイズ設定画面**を表示する

- 現在の設定状態が表示されます。

ノーマル

2 **[決定]**または**[◀/▶]**で設定を切り換える

スモール

- “**ノーマル**” : 100%の画面サイズで表示します。
- “**スモール**” : 95%の画面サイズで表示します。

3 **[戻る←]**を押し、設定を完了する

お知らせ

- 一部のファイル(画像サイズが小さいファイル等)では、効果が出ないことがあります。

早送り/早戻し



1 再生中に**[早送り▶▶]**または**[早戻し◀◀]**を押す

- 繰り返し押すたびに早送り/早戻しの速度を切り換えます。

2 **[再生▶]**を押して通常の再生に戻る

お知らせ

- BD、BD-RE、DVD、DVD-VR、AVCREC、AVCHDの早戻し、早送り中は音声はできません。
- 早戻し、早送りの速度は、BD、BD-RE、DVD、DVD-VR、AVCREC、AVCHDでは5段階、音楽用CD、MP3では3段階まで切り換えできます。
- 音楽用CDのプログラム、ランダム再生中にトラックをまたいだり、MP3ファイルをまたぐ早戻し、早送りはできません。

再生する

スロー再生



AVCHD

- 1 一時停止中に[早送り▶▶]を押す
 - 繰り返し押すたびにスロー再生の速度を3段階まで切り換えます。

- 2 [再生▶]を押して通常の再生に戻る

お知らせ

- スロー再生中は音声はできません。
- 逆スロー再生はできません。
- 一時停止中の映像にブレが生じる場合は、再生を一旦停止してから、“スチルモード”を“フィールド”に切り換えてください。(☞ 40ページ)

コマ送り再生



AVCHD

- 1 一時停止中に[一時停止||]を繰り返し押す
 - 繰り返し押すたびに、1コマずつ再生します。

- 2 [再生▶]を押して通常の再生に戻る

お知らせ

- コマ戻し再生はできません。
- 一時停止中の映像にブレが生じる場合は、再生を一旦停止してから、“スチルモード”を“フィールド”に切り換えてください。(☞ 40ページ)

リピート再生

再生するディスクやファイルによってリピート再生の機能が異なります。設定可能なリピートモードは下記の一覧をご覧ください。

リピートモード	再生するディスク/ファイル
チャプターリピート	BDビデオ, BD-DAVモード, DVDビデオ
現在のチャプターを繰り返し再生します。	DVD-RW/VRモード, DVD-RW/VRモード, AVCHD
タイトルリピート	BDビデオ, BD-DAVモード, DVDビデオ
現在のタイトルを繰り返し再生します。	DVD-RW/VRモード, DVD-RW/VRモード, AVCHD
トラックリピート	CD, MP3
現在のトラックまたはファイルを繰り返し再生します。	
グループリピート	MP3, JPEG
現在のフォルダを繰り返し再生します。	
オールリピート	BDビデオ, DVD-RW/VRモード, DVD-RW/VRモード
メディアに含まれるすべてのタイトル、トラックまたはファイルを繰り返しかえし再生します。	CD, MP3, JPEG

- 1 再生中に[リピート]を押す
 - 現在の設定状態が表示されます。
- 2 お好みのリピートモードが表示されるまで、繰り返し[リピート]を押す
 - 設定を完了し、約3秒間操作をしないと表示が消えます。
- 3 通常の再生に戻すときは、“切”が表示されるまで繰り返し[リピート]を押す

お知らせ

- 再生を停止すると、リピート再生は解除されます。
- オールリピートを除くすべてのリピートモードでは、リピート再生中にほかのタイトルやチャプター、トラック、フォルダ、ファイルを選択するとリピート再生は解除されます。
- ディスクによっては、リピート再生ができないものがあります。
- 場面によっては、チャプターまたはタイトルリピートができないものがあります。

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

プログラム再生



トラック番号やファイル番号を登録して好きな順に再生することができます。

1 再生の停止中に[モード]を押す

- プログラム設定画面が表示されます。

2 [▲/▼]でお好みのトラック番号またはファイル番号を選び、[決定]を押す

- MP3やJPEGファイルがフォルダに入っている場合は、先に[▲/▼]でフォルダを選び、[決定]を押したあと、プログラムしたいファイルを選んでください。
- プログラムしたトラックまたはファイルを消去したい場合は、[クリア]を押すと最後に入力されたトラックまたはファイルから消去されます。
- 入力されたすべてのプログラムを消去する場合は、プログラムリスト末尾の“オールクリア”を選び、[決定]を押してください。
- 前後の階層に移動するときは、[◀/▶]を押してください。

音楽用CDの場合：



- 1 音楽用CD : トラック情報
MP3 / JPEG : ファイル情報
- 2 音楽用CD : “CD-DA”の固定表示
MP3 / JPEG : 現在再生中のディスク名、SDカード名またはフォルダ名
- 3 トラック / フォルダ / ファイルリスト : オリジナルの順番のトラック / フォルダ / ファイルのリスト
- 4 プログラムリスト : プログラムした順番のトラック / フォルダ / ファイルのリスト
- 5 プログラムしたすべてのトラックの合計時間 (音楽用CDのみ表示)
- 6 現在の再生状態
- 7 現在のページ数 / 合計ページ数
- 8 操作ガイド : [青] トラック / フォルダ / ファイルリストの前ページへ移動
: [赤] トラック / フォルダ / ファイルリストの次ページへ移動
: [緑] プログラムリストの前ページへ移動
: [黄] プログラムリストの次ページへ移動

3 登録が完了したら[再生▶]を押す

- プログラム再生を始めます。

通常の再生画面に戻るには：
再生の停止中に[戻る◀]を押す。

お知らせ

- プログラム再生中に[停止■]を押すと、次回の再生時には音楽用CDは停止した位置、MP3は停止したファイルの先頭、JPEGは停止したファイルから再生を始めます。
- プログラム再生中に[停止■]を2回押すと、プログラム設定画面が表示されます。
- 99トラックまたは99ファイルまで登録できます。
- プログラム再生中に、現在再生されているトラックまたはファイルをリピート再生したい場合は、“ トラック”が表示されるまで、繰り返し[リピート]を押します。
- プログラム再生中に、現在プログラム登録されているすべてのトラックまたはファイルをリピート再生したい場合は、“ オール”が表示されるまで、繰り返し[リピート]を押します。
- プログラム再生中に、プログラムした次のトラックまたはファイルを再生するときは[スキップ▶▶]を押してください。
- プログラム再生中は、ランダム再生はできません。
- プログラム設定画面表示中に[モード]を押すと、ランダム再生画面に切り換わります。
- プログラム設定は以下の場合に解除されます。
 - 本機をスタンバイ状態にしたとき
 - メディア選択を切り換えたとき
 - ディスクトレイを開けたとき
 - SDカードを本機から抜いたとき

ランダム再生



トラック単位またはファイル単位でランダム(順不同)に再生することができます。

1 再生の停止中に[モード]を2回押す

- ランダム再生画面が表示されます。

音楽用CDの場合：



- 1 音楽用CD : トラック情報
MP3 / JPEG : ファイル情報
- 2 音楽用CD : "CD-DA"の固定表示
MP3 / JPEG : 現在選択中のディスク名、SDカード名またはフォルダ名
- 3 トラック/ファイルリスト : オリジナルの順番のトラック/ファイルのリスト
- 4 操作ガイド : [青] リスト上ページへ移動
: [赤] リスト下ページへ移動
- 5 すべてのトラックの合計時間(音楽用CDのみ表示)
- 6 現在の再生状態

2 [再生▶]を押す

- ランダム再生を始めます。

通常の再生画面に戻るには：
再生の停止中に[モード]を押す。

お知らせ

- ランダム再生中に[停止 ■]を押すと、次回の再生時には音楽用CDは停止した位置、MP3は停止したファイルの先頭、JPEGは停止したファイルから再生を始めます。
- ランダム再生中に、現在ランダム再生されているトラックまたはファイルをリピート再生したい場合は、"**G** トラック"が表示されるまで、繰り返し[リピート]を押します。
- ランダム再生中に、現在ランダム再生されているすべてのトラックまたはファイルをリピート再生したい場合は、"**G** オール"が表示されるまで、繰り返し[リピート]を押します。
- ランダム再生中は、プログラム再生はできません。また、前のトラックまたはファイルに戻ることはできません。
- ランダム再生中に、次のトラックまたはファイルを再生するときは[スキップ▶▶]を押してください。
- 再生の停止中に[戻る←]を押すと、プログラム設定画面に切り換わります。
- MP3やJPEGファイルが混在したディスクでは、音楽または写真ファイル内でのランダム再生を行ないません。すべてのファイルのランダム再生はできません。
- ディスクによっては、ランダム再生ができない場合があります。
- ランダム設定は以下の場合に解除されます。
 - 本機をスタンバイ状態にしたとき
 - メディア選択を切り換えたとき
 - ディスクトレイを開けたとき
 - SDカードを本機から抜いたとき

画質調整



AVCHD

お好みに合わせて画質の調節設定が行なえます。

1 再生中に、 画質調節設定画面が表示されるまで、繰り返し[モード]を押す

2 [▲/▼]で変更したい項目を選び、[◀/▶]で設定を切り換える

DVDビデオの場合：



黒レベル

画像の暗い部分が明るくなるように調整します。

“切”：オリジナル画像のまま表示します。

“入”：暗部を明るくします。

HDノイズリダクション

再生画像のノイズを軽減します。

“切”：オリジナル画像のまま表示します。

“入”：HDノイズリダクションを実行し、再生画像のノイズを軽減します。

3 [戻る←]を押し、設定を完了する

お知らせ

- 画質調整の各設定値は、本機をスタンバイモードにしても記憶されます。
- 設定中に電源コードを抜くと、設定値を記憶しない場合があります。
- “黒レベル”は以下の場合に効果がありません。
 - HDMI出力端子から映像を出力中
 - コンポーネント映像出力端子から映像を出力中で、“コンポーネント出力設定”が“480p / 720p / 1080i”に設定されているとき

バーチャルサラウンド設定



CD AVCHD MP3

お使いの2チャンネルステレオシステムで、仮想的なサラウンド効果を楽しむことができます。

1 再生中に バーチャルサラウンド設定画面が表示されるまで、繰り返し[モード]を押す

2 [▲/▼]で設定を切り換える



“切”：オリジナルの音声のまま出力します。

“1”：標準の音声効果で出力します。

“2”：強めの音声効果で出力します。

3 [戻る←]を押し、設定を完了する

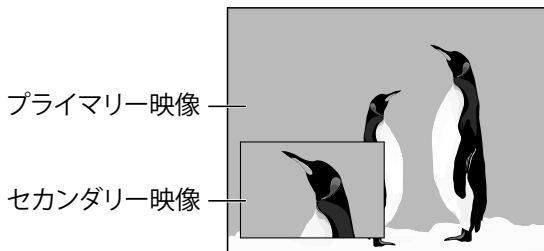
お知らせ

- ディスクによってはサラウンド効果がでないものや、でないものがあります。
- 音声がひずむ場合は、ボリュームを下げるか、バーチャルサラウンド設定を“切”にしてください。
- バーチャルサラウンド設定中の音声出力は2ch LPCMとなります。

PIP (ピクチャー・イン・ピクチャー) (BONUSVIEW) の設定



PIP (ピクチャー・イン・ピクチャー) 機能を持つBDビデオの再生時、セカンダリー映像を含むシーンで、セカンダリー映像を画面内に別画面で表示することができます。



プライマリー映像

セカンダリー映像

1 再生中に PIP設定画面が表示されるまで繰り返し[モード]を押す

- 現在の設定状態が表示されます。



2 [▲/▼]でセカンダリー映像を切り換える

- 設定を完了し、約5秒間操作をしないと表示が消えます。


3 [戻る←]または[モード]を押し、PIP設定画面の表示を消す

お知らせ

- セカンダリー映像の音声は、“Secondaryオーディオ”が“切”、または“BD-HD音声設定”が“HD音声”に設定時には出力されません。
詳しくは、“音声を切り換える” (☞ 35ページ)と“BD-HD音声設定を切り換える” (☞ 36ページ)をご覧ください。

アングルを切り換える





複数のカメラアングルによる映像が記録されているBD、またはDVDの再生中に、アングルを切り換えることができます。カメラアングル映像が記録されたシーンではが画面に表示されます。

1 再生中に[アングル]を押し、アングル設定画面を表示する


- 現在再生中のアングル番号を表示します。

2 [▲/▼]でアングルを切り換える

- 設定を完了し、約5秒間操作をしないと表示が消えます。

 1/3 

お知らせ

- “アングルアイコン”を“切”に設定している場合、は表示されません。詳しくは、“アングルアイコン” (☞ 48ページ)をご覧ください。

BD-Liveについて



本機は、BD-Live機能付きのBDビデオ (BD-ROMプロファイル2.0) に対応しています。本機をインターネットに接続することで、特別映像や字幕などの追加コンテンツや、ネットワーク対戦ゲームなど、様々な機能を楽しむことができます。

1 BD-Live機能付きのディスクを入れる

2 十分な空き容量 (1 GB以上) があるSDカードを挿入する

- 本機で対応しているSDカードのファイルシステムについては、“SDカードについて” (☞ 20ページ)をご覧ください。

3 [トップメニュー]を押し

- ディスクのトップメニューが表示されます。

4 “BD-Live”を選択し、[再生▶]または[決定]を押し

- SDカードが正しく挿入されているか確認し、再生中はSDカードを抜かないでください。
- BD-Liveで利用できる様々な機能は、ディスクにより異なります。詳しい機能や動作については、それぞれのディスクの画面表示や説明をご覧ください。

お知らせ

- BD-Live機能を利用するには、本機をインターネットに接続し、必要な設定を行なってください。接続のしかたについては“ネットワーク接続” (☞ 18ページ)を、設定のしかたについては“ネットワーク設定” (☞ 50ページ)をご覧ください。
- ディスクによっては、“BD-Live接続設定” (☞ 53ページ)を変更する必要がある場合があります。
- お使いのネットワーク環境によっては、ネットワーク接続に時間がかかったり、接続できない場合があります。
- BD-Liveに接続中、ページを読み込むのに時間がかかる場合があります。
- BD-Live対応ディスクの再生中、プレイヤーまたはディスクの識別IDがコンテンツプロバイダーに送信されることがあります。インターネット接続を制限するには、“BD-Live接続設定” (☞ 53ページ)を変更してください。
- BD-Live対応ディスクには、再生時にメモリーを必要とするものがあります。再生できない場合には、本機で初期化した1 GB以上の空き容量があるSDカードを挿入して再生してください。

サーチ機能を使う

頭出しをする

再生中に[スキップ◀◀]または[スキップ▶▶]を押す

- 押した回数だけチャプターまたはトラック、ファイルを飛び越します。
- [スキップ◀◀]を1回押すと再生中のチャプターまたはトラック、ファイルの先頭に戻ります。(JPEGでは1つ前のファイルに戻ります。)

お知らせ

- ディスクによっては、タイトルや、トラック、ファイルをまたぐ頭出しが禁止されている場合があります。
- チャプターがないタイトルの場合、[スキップ◀◀]または[スキップ▶▶]を押すことで前後のタイトルに切り換わります。
- JPEGでは、[◀/▶]でも同様の操作ができます。

サーチモード

ディスクやファイルによってサーチモードの機能が異なります。設定可能なサーチモードは下記の一覧をご覧ください。

サーチモード	再生するディスク / ファイル
チャプター / タイトルサーチ	
指定したチャプターやタイトルを頭出しします。 	
トラックサーチ	
指定したトラックやファイルを頭出しします。 	
タイムサーチ	
指定した時間で頭出しします。 	

1 再生中に[サーチ]を押す

- サーチモード設定画面が表示されます。

2 お好みのサーチモードが表示されるまで、繰り返し[サーチ]を押す

- それぞれ以下の順番でサーチモードが切り換わります。

BD/BDAV/DVD/DVD-VR/AVCREC/AVCHD	チャプターサーチ → タイトルサーチ → タイムサーチ
音楽用CD	トラックサーチ → タイムサーチ
MP3/JPEG	トラックサーチ

3 数字ボタン[0~9]で頭出ししたいチャプターやタイトル、トラック、ファイル番号または時間を入力する

- 希望した箇所の頭出しを行なったあと、再生を始めます。

- 間違えた入力をした場合は、[クリア]で消してください。

お知らせ

- プログラム再生中またはランダム再生中は、サーチモードでのトラック、ファイルの頭出しはできません。[スキップ◀◀]または[スキップ▶▶]で頭出しを行なってください。
- タイムサーチは、同一のタイトル、トラックまたはファイル内のみ設定できます。チャプター内でのサーチはできません。
- BDおよびAVCHDのチャプター、タイムサーチは、再生中のみ利用できます。
- 音楽用CDでは、ディスク全体のタイムサーチはできません。
- ディスクによっては、サーチモードが働かない場合があります。

ダイレクトサーチ

タイトルサーチ

再生の停止中、数字ボタン[0~9]で頭出ししたいタイトル番号を入力する

- 数秒のうちに指定したタイトルの再生が始まります。

チャプターサーチ

タイトルの再生中、数字ボタン[0~9]で頭出ししたいチャプター番号を入力する

- 数秒のうちに指定したチャプターの再生が始まります。

トラック / ファイルサーチ

数字ボタン[0~9]で頭出ししたいトラック / ファイル番号を入力する

- 数秒のうちに指定したトラック / ファイルの再生が始まります。

お知らせ

- BDビデオの場合、ディスクによっては上記の説明通りに動作しない場合があります。

字幕を切り換える

字幕に複数の言語が記録されているBD、DVD、DVD-VR、またはAVCHDファイルの再生中に、字幕を切り換えることができます。BDでは表示される字幕のスタイルも切り換えることができます。



プライマリー字幕 ("Primary字幕") / セカンダリー字幕 ("Secondary字幕") や字幕スタイルを選びます。

1 再生中に[字幕]を押す

- 現在再生中の字幕番号を表示します。

2

[▲/▼]で"Primary字幕"、"Secondary字幕"または"字幕スタイル"を選び、[決定]を押す

	Primary 字幕	1 日本語/11
	Secondary 字幕	2 英語/11
	字幕スタイル	2/25

- “Primary字幕” : プライマリー映像の字幕を設定します。
- “Secondary字幕” : セカンダリー映像の字幕を設定します。
- “字幕スタイル” : 字幕スタイルを選びます。

3 ▲ / ▼]でお好みの字幕言語または字幕スタイルを選ぶ

- [◀/▶]で、現在の字幕設定と“切”を切り換えます。

4 [字幕]を押し、設定を完了する



1 再生中に[字幕]を押し

- 現在再生中の音声信号を表示します。

2 ▲ / ▼]でお好みの字幕を選ぶ

- [◀/▶]で、現在の字幕設定と“切”を切り換えます。



3 [字幕]を押し、設定を完了する

お知らせ

- ディスクの字幕に複数の言語または字幕スタイルが入っている場合にのみ有効です。
- ディスクによっては、字幕に複数の言語が入っていても[字幕]が働かず、ディスクメニュー上でのみ選択できる場合があります。操作方法については、ディスクの説明書をお読みください。
- 字幕や字幕スタイルが含まれていない場合は、“なし”を表示します。
- セカンダリー映像の再生中、セカンダリー映像の字幕がない場合を除いて、“Primary字幕”の設定はできません。

音声を切り換える

音声に複数の言語・音声フォーマットが記録されているBD、BD-DAV、DVD、DVD-VR、AVCREC、音楽用CD、AVCHDの再生中に、音声を切り換えることができます。また、ピクチャー・イン・ピクチャーのBDでは、インタラクティブオーディオやコメンタリー音声などの、セカンダリー音声を“Secondaryオーディオ”で設定することができます。

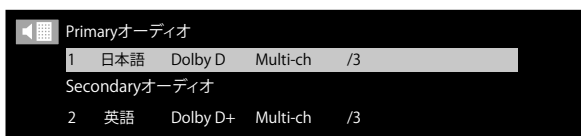


プライマリー音声 (“Primaryオーディオ”) / セカンダリー音声 (“Secondaryオーディオ”) を選びます。

1 再生中に[音声]を押し

- 現在再生中の音声番号を表示します。

2 ▲ / ▼]で“Primaryオーディオ”または“Secondaryオーディオ”を選び、[決定]を押し



“Primaryオーディオ” : プライマリー映像の音声を設定します。

“Secondaryオーディオ” : セカンダリー映像の音声を設定します。

3 ▲ / ▼]でお好みの音声を選ぶ

- “Secondaryオーディオ”では、[◀ / ▶]で現在の音声設定と“切”を切り換えます。

4 [音声]を押し、設定を完了する

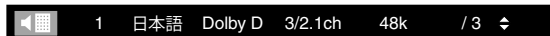


1 再生中に[音声]を押し

- 現在再生中の音声番号を表示します。

2 ▲ / ▼]でお好みの音声を選ぶ

DVDビデオの場合 :



- 音楽用CDでは、以下の音声モードからお好みの音声モードを選択します。

“ステレオ” : 左右のチャンネル両方の音声を出力します。

“L-ch” : 左チャンネルの音声のみ出力します。

“R-ch” : 右チャンネルの音声のみ出力します。

3 [音声]を押し、設定を完了する

お知らせ

- 音声が含まれていない場合は、“なし”を表示します。複数の音声記録されていないディスクの再生時は、音声を切り換えることはできません。
- DTS-CD (5.1音楽ディスク) は、音声を切り換えることはできません。
- ニカ国語 (二重音声) BDAV、DVD-VRまたはAVCRECでは、“主音声”、“副音声”または“主/副音声”に切り換えることができます。
- ディスクによっては、音声に複数の言語が入っていても[音声]が働かず、ディスクメニュー上でのみ選択できる場合があります。操作方法については、ディスクの説明書をお読みください。
- セカンダリー音声を楽しむためには、必ず“BD-HD音声設定”を“複合音声”に設定してください。(☞ 36ページ)
- セカンダリー映像が切になっている場合、セカンダリー音声は出力されません。(BDによっては、セカンダリー映像が切になっていてもセカンダリー音声のみ出力される場合があります。)
- ディスクトレイを開けたり、再生中に電源プラグを抜くと音声の設定が解除され、初期設定に戻ります。

BD-HD音声設定を切り換える

ドルビーデジタルやDTS®などのマルチチャンネル音声記録された、インタラクティブオーディオやコメントリー音声などのセカンダリー音声を含むBDでそれらすべての音声を聴く場合や、プライマリー音声のみをオリジナルの高音質のまま出力したい場合など、お好みに応じた音声設定に切り換えることができます。



1 再生の停止中に[モード]を押す

- 現在の設定状態が表示されます。

2 [▲/▼]で“複合音声”または“HD音声”を選ぶ



“複合音声”：インタラクティブオーディオ (ボタン操作音等) やセカンダリー音声 (セカンダリー映像の音声) を含むBDを楽しむ場合に設定します。

“HD音声”：ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD、DTS®、DTS-HD®などの信号を高音質のままプライマリー音声のみ出力します。インタラクティブオーディオやセカンダリー音声は出力されません。

3 [戻る←]を押し、設定を完了する

お知らせ

- セットアップメニューでも“BD-HD音声設定”を設定できます。(☞ 41ページ)
- 出力される音声の詳細については、“HDMI出力端子からの音声信号” (☞ 42ページ) または“デジタル音声出力端子 (同軸) からの音声信号” (☞ 44ページ) をご覧ください。
- “複合音声”に設定していても、インタラクティブオーディオやセカンダリー音声再生するBDに含まれていない場合は、プライマリー音声のみが出力されます。

初期設定操作のしかた (セットアップメニュー)

セットアップメニューでは、音声、映像、言語、その他の各種設定ができます。

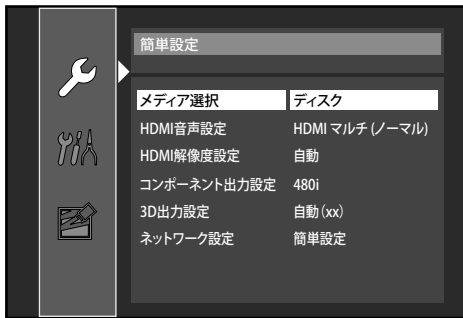
🔧 簡単設定

よく使われる項目を"🔧 簡単設定"から抽出しています。

1 再生の停止中に[セットアップ]を押す

2 [▲/▼]で🔧を選び、[決定]を押す

3 [▲/▼]で設定したい項目を選ぶ



4 項目によって、以下のうちどちらかの手順で設定値を選ぶ

選択している項目の右側に▶が表示されていない場合:

繰り返し[決定]を押して設定値を切り換える

選択している項目の右側に▶が表示されている場合:

1) [決定]を押す

2) [▲/▼]で設定値を選び、[決定]を押す

- 1つ前の画面に戻るには、[◀]または[戻る ←]を押してください。

5 [セットアップ]を押し、設定を完了する

お知らせ

- 再生中には設定変更はできません。また、本機や接続機器の状態において利用できない項目は灰色で表示され、選択することができません。

🔧 詳細設定

"🔧 詳細設定"には、本機で設定できるすべての項目が含まれています。

1 再生の停止中に[セットアップ]を押す

2 [▲/▼]で🔧を選び、[決定]を押す

3 [▲/▼]で設定したい項目を選び、[決定]を押す

👤: "再生設定" (☞ 38ページ)

📺: "映像出力設定" (☞ 39ページ)

🔊: "音声出力設定" (☞ 41ページ)

🔒: "視聴制限設定" (☞ 47ページ)

⚙️: "その他設定" (☞ 48ページ)

- "視聴制限設定"の手順については、☞ 47ページをご覧ください。

4 [▲/▼]でさらに設定したい項目を選ぶ

5 項目によって、以下のうちどちらかの手順で設定値を選ぶ

選択している項目の右側に▶が表示されていない場合:

繰り返し[決定]を押して設定値を切り換える

選択している項目の右側に▶が表示されている場合:

1) [決定]を押す

2) [▲/▼]で設定値を選び、[決定]を押す

- 1つ前の画面に戻るには、[◀]または[戻る ←]を押してください。

6 [セットアップ]を押し、設定を完了する

お知らせ

- 再生中には設定変更はできません。また、本機や接続機器の状態において利用できない項目は灰色で表示され、選択することができません。

ご使用になる前に

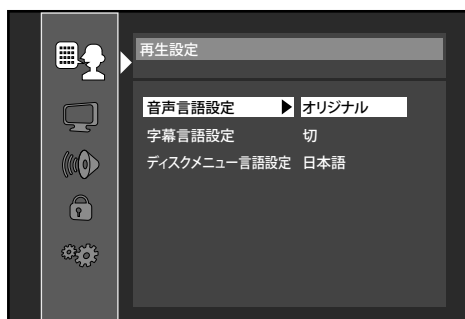
接続する




再生する

設定

その他

再生設定



- 操作方法については、“ 詳細設定”をご覧ください。(☞ 37ページ)
-  が付いている項目は、“ 簡単設定” (☞ 37ページ) でも設定することができます。

設定項目	初期設定	その他の設定値
音声言語設定 音声言語を設定します。	オリジナル	日本語 英語 ----*
字幕言語設定 字幕言語を設定します。	切	日本語 英語 ----*
ディスクメニュー言語設定 ディスクメニュー画面の言語を設定します。	日本語	英語 ----*

* “----”を選択すると、言語コード入力画面が表示されます。

“言語コード一覧”(☞ 60ページ)を参照して、言語コードを入力してください。

- 字幕を表示させたくない場合は、“字幕言語設定”で“切”を選んでください。
ディスクによっては字幕表示を消すことができない場合もあります。

映像出力設定



- 操作方法については、“ 詳細設定”をご覧ください。(⇒ 37ページ)
- が付いている項目は、“ 簡単設定” (⇒ 37ページ)でも設定することができます。

設定項目	初期設定	その他の設定値
TV画面選択 接続したテレビの画面サイズに応じて、視聴する映像サイズを設定します。	16:9 ワイド 16:9ワイドテレビで見るときに選びます。16:9ワイド映像を画面いっぱいに映します。	4:3 パンスキャン 4:3標準テレビで16:9ワイド映像を見るときに、上下方向を画面いっぱいに映し、左右方向を一部カットします。パンスキャン指定のないDVDビデオソフトはレターボックスで表示されます。
		4:3 レターボックス 4:3標準テレビで16:9ワイド映像を見るときに、左右方向を画面いっぱいに映し、上下方向に黒い帯を表示します。
3D出力設定 3D映像ソフトの出力を設定します。	自動(xx) 接続したHDMI機器に応じて3D、2Dを自動で設定します。	3D 3Dモードで出力します。
		2D 2Dモード(通常の映像)で出力します。
HDMI解像度設定 接続したHDMI機器に応じて、HDMI解像度を設定します。	自動 接続したHDMI機器によって、HDMI映像解像度を自動で設定します。	480p 480プログレッシブで出力します。
HDMIディープカラー 色深度(ディープカラー)を拡張して出力するときに設定します。	自動 接続したHDMI機器がディープカラーに対応している場合、自動でHDMI出力端子からの映像信号をディープカラーで出力します。	切 HDMI端子からの映像信号をディープカラーで出力しません。
コンポーネント出力設定 接続した機器が対応している映像解像度に応じて設定します。	480i 480インターレースで出力します。	480p 480プログレッシブで出力します。
		720p 720プログレッシブで出力します。
		1080i 1080インターレースで出力します。

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

設定

設定項目	初期設定	その他の設定値
スチルモード※ 一時停止時の画質を設定します。	オート 表示する静止画の情報に応じて、“フィールド”または“フレーム”のどちらかで表示されます。	フィールド “オート”に設定しても画像のブレが発生するときに設定します。“フィールド”を選択すると、情報量が少ないため、画像は少し荒くなりますが、ブレを生じません。
		フレーム 動きのない画像を特に高解像度で一時停止させたいときに設定します。“フレーム”を選択すると、画質は良くなりますが、2枚のフィールドを交互に出力させるため、画像にブレが生じることがあります。

※ テレビの1枚の画面のことを「フレーム」とよび、1枚の「フレーム」は「フィールド」とよばれる2枚の画面から作られています。“スチルモード”で“オート”を選択している場合、静止画によっては画像にブレを生じることがあります。

“HDMI解像度設定”と“コンポーネント出力設定”について

- 本機をHDMI DVI機器とHDMI-DVIケーブルで接続している場合、“HDMI解像度設定”を“自動”に設定していても“480p”で出力されます。
- 再生を行なっているときに、“HDMI映像解像度”の設定を切り換えたり、入力を切り換えるなどの操作を行なうと、音声・映像が一時途切れることがあります。
- お持ちのテレビが1080プログレッシブ24フレームに対応している場合は、HDMIケーブルを使用して接続し、“HDMI解像度設定”を“自動”に設定すると、1080プログレッシブ24フレームとしてフィルム素材(1秒間に24フレームで撮影)を記録した高品質でより自然に近い映像を楽しむことができます。
- お持ちのテレビが1080プログレッシブ24フレームに対応していて“HDMI解像度設定”を“自動”に設定している場合でも、ディスクが1080プログレッシブ24フレーム対応でない場合やAVCHDでは、24フレームの映像は60フレームで出力されます。
- “HDMI解像度設定”や“コンポーネント出力設定”の設定後、テレビ画面の映像がまったくでない、または映像に悪い影響が生じるなどの症状がある場合は、本体前面の【再生 ▶】を5秒以上押してください。自動的に初期設定に切り換わります。
- HDMIケーブルが接続されている場合、“コンポーネント出力設定”では、現在HDMI端子で出力している解像度、または“480i”にのみ設定可能です。
- コンポーネント映像出力端子とHDMI出力端子からの出力解像度が違う場合や、“HDMI解像度設定”が“自動”に設定されている場合、“コンポーネント出力設定”は“480i”に切り換えられます。
- コピー禁止信号のあるディスクを再生する場合、“コンポーネント出力設定”を“720p”や“1080i”に設定していても、コンポーネント映像出力端子からは、“480p”が出力されません。
- コピー禁止信号のあるBDビデオでは、映像がHDMI出力端子からのみ出力され、その他の出力端子からは出力されない場合があります。
- 選択した出力解像度は接続した機器でも対応している必要があります。詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- BDの映像は1080プログレッシブ24フレームで出力されている場合、アナログ映像出力端子、コンポーネント映像出力端子から映像が出力されません。
- フレームシーケンシャル3Dディスクを3Dで再生する場合、HDMI解像度の設定に関係なく、ディスクが対応している解像度で出力されます。

音声出力設定



- 操作方法については、“詳細設定”をご覧ください。(☞ 37ページ)
- ㊟が付いている項目は、“簡単設定” (☞ 37ページ)でも設定することができます。

設定項目	初期設定	その他の設定値
BD-HD 音声設定 インタラクティブオーディオやプライマリー音声、セカンダリー音声などが記録されたBDの再生時に、すべての音声を出力するか、プライマリー音声のみを出力するかを設定します。 (詳しくは、“BD-HD音声設定を切り換える” (☞ 36ページ)をご覧ください。)	複合音声 インタラクティブオーディオやプライマリー音声、セカンダリー音声などをすべて出力します。	HD音声 プライマリー音声のみを高品質で出力します。
HDMI音声設定 ㊟ HDMI出力端子から出力される音声信号の音声フォーマットを設定します。(詳しくは、“HDMI音声出力設定” (☞ 42ページ)および“HDMI出力端子からの音声信号” (☞ 42ページ)をご覧ください。)	HDMIマルチ(ノーマル) HDMI出力端子からマルチチャンネルのビットストリーム音声信号、またはLPCM音声信号を出力します。	HDMIマルチ(LPCM) HDMI出力端子からマルチチャンネルのLPCM音声信号を出力します。また、この設定にするとスピーカー設定が可能です。 (詳しくは、“スピーカー設定” (☞ 45ページ)をご覧ください。)
ダウンサンプリング LPCMで記録されたBDやDVDの再生時のデジタル音声出力を設定します。	入 96kHzより大きなサンプリング周波数の入力に対応していないAVアンプ等にデジタル接続している場合に設定にします。LPCMの信号を48kHzに変換して出力します。	切 著作権保護のないLPCMの信号が記録されたBDまたはDVDの再生時、192kHzまでの2ch音声については、変換せずにそのまま出力します。
オーディオDレンジ ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスまたはドルビーTrueHDで記録された音声の場合にのみ有効です。 音量範囲を圧縮することで夜間の出力を抑制しながら音量が低い部分の音域レベルを上げることができます。	自動 ドルビーTrueHDの再生中に、本機がディスクのオーディオDレンジ情報を認識し、自動でオーディオDレンジ設定を“入”または“切”に設定します。ドルビーTrueHD以外を再生した場合は“切”と同じ動作をします。	入 記録された音声の強弱の幅を調整します。 切 記録されたオリジナル音源で出力します。

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

HDMI音声出力設定

HDMIケーブルを接続しているテレビや機器のシステムに合わせ、以下を参照して“HDMI音声設定” (☞ 41ページ) で設定を行なってください。また、通常は“HDMIマルチ(ノーマル)”に設定していただくと、接続している機器に合わせて本機が自動的に最適の音声フォーマットを選んで出力します。

接続する機器	“HDMI音声設定”	
DTS®やDTS-HD®,ドルビーデジタルやドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDのデコードに対応している機器	“HDMIマルチ(ノーマル)”	DTS®やドルビーデジタルビットストリーム信号が接続先のテレビやAVアンプなどで変換されます。 (※HDMI音声のスピーカー設定はできません。接続したアンプなどのAV機器側でスピーカーの設定を行なってください。)
3ch以上の音声入力に対応している機器(※DTS®,DTS-HD®,ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスやドルビーTrueHDには非対応)	“HDMIマルチ(LPCM)”	マルチチャンネルのLPCM音声をHDMI端子からの音声出力で楽しむことができます。(この設定にするとスピーカー設定が可能です。 詳しくは、“スピーカー設定” (☞ 45ページ) をご覧ください。)
映像信号をHDMIケーブルを経由して出力し、音声信号をデジタル音声入力端子付AVアンプなどから出力	“音声ミュート”	HDMI出力端子からの音声出力を停止し、デジタル音声出力端子(同軸)からドルビーデジタルやDTS®の音声信号を“デジタル出力”設定で選択されたビットストリームまたは“LPCM”で出力します。 (“デジタル出力”設定については、“デジタル音声出力”設定(☞ 43ページ)および“デジタル音声出力端子(同軸)からの音声信号” (☞ 44ページ)をご覧ください。)

HDMI出力端子からの音声信号

メディア	音楽記録方式	“HDMI音声設定”			
		“HDMIマルチ(ノーマル)”		“HDMIマルチ(LPCM)”	
		“BD-HD音声設定”を“HD音声”に設定時	“BD-HD音声設定”を“複合音声”に設定時	“BD-HD音声設定”を“HD音声”に設定時	“BD-HD音声設定”を“複合音声”に設定時
BDビデオ	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM	マルチLPCM
	ドルビーデジタルプラス	ドルビーデジタルプラス	ドルビーデジタル ^{*2}	マルチLPCM ^{*1}	マルチLPCM ^{*2}
	ドルビーTrueHD	ドルビーTrueHD	ドルビーデジタル ^{*4}	マルチLPCM ^{*3}	マルチLPCM ^{*4}
	DTS®	DTS®	DTS®	マルチLPCM ^{*6}	マルチLPCM ^{*6}
	DTS-HD®	DTS-HD®	DTS ^{*5}	マルチLPCM ^{*1,6}	マルチLPCM ^{*5,6}
	AAC	AAC	AAC	マルチLPCM	マルチLPCM
	LPCM	マルチLPCM	マルチLPCM	マルチLPCM	マルチLPCM
DVDビデオ	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		マルチLPCM	
	DTS®	DTS®		マルチLPCM	
	LPCM	2ch LPCM		2ch LPCM	
AVCREC	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		マルチLPCM	
	AAC※	AAC		マルチLPCM	
	LPCM	2ch LPCM		マルチLPCM	
AVCHD	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		マルチLPCM	
	LPCM	2ch LPCM		マルチLPCM	
音楽用CD、MP3		2ch LPCM		2ch LPCM	
DTS-CD		DTS®		マルチLPCM	

- *1:フルデコードされます。
- *2:インデペンデントサブストリームのみデコードされます。
- *3:ドルビーTrueHDストリームでデコードされます。
- *4:ドルビーデジタルサブストリームのみデコードされます。
- *5:コアサブストリームのみデコードされます。
- *6:マルチチャンネルの音声は7.1チャンネルとしてデコードされますが、出力する音声のチャンネル数は接続しているスピーカーの数により変わります。

※ デジタル放送で使用されるAAC音声の再生は可能ですが、パソコンなどで記録されたAAC音声の再生はできません。

- 接続している機器がHDMIビットストリームに対応していない場合“HDMI音声設定”を“HDMIマルチ(ノーマル)”に設定していても、機器の性能に応じてマルチLPCM、またはダウンミックス2ch LPCMで出力されます。
- 再生するBDビデオにセカンダリー音声やインタラクティブオーディオがない場合は、“BD-HD音声設定”を“複合音声”に設定していても、出力音声は“HD音声”と同様になります。

お知らせ

- HDMI端子からの音声信号(サンプリング周波数、チャンネル数、ビット長など)は、接続する機器により制限されることがあります。アナログ音声も同様に制限されます。
- プロジェクターなどのHDMI対応モニターによっては、音声信号入力に対応していない場合があります。そのような機器と本機を接続した場合は、HDMI出力端子から音声信号は出力されません。
- 再生を行なっているときに、“HDMI映像解像度”の設定を切り換えたり、入力を切り換えるなどの操作を行なうと、音声・映像が一時途切れることがあります。

デジタル音声出力設定

“HDMI音声設定”で“音声ミュート”に設定すると、HDMI出力端子からの音声信号の出力を停止し、デジタル音声出力端子からの回路に切り換えます。

デジタル音声出力端子から出力される音声の設定は、以下を参照して行なってください。

“ 簡単設定” → “HDMI音声設定” → “音声ミュート” → “デジタル出力”

設定項目	初期設定	その他の設定値
デジタル出力 “HDMI音声設定” (☞ 41ページ)で“音声ミュート”の選択時にデジタル音声出力端子から出力される音声を設定します。 ※HDMIケーブルで音声出力を行なっている場合は、この設定は無効になります。	ビットストリーム ディスクに収録されたドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスまたはドルビーTrueHDのドルビーデジタル部分のみ、またはDTS-HD®のDTS部分のみをビットストリーム出力します。	LPCM ディスクに収録されたドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDまたは、DTS®、DTS-HD®をLPCMに変換して出力します。

デジタル音声出力端子(同軸)からの音声信号

“HDMI音声設定”で“音声ミュート”に設定している場合に、以下の通りの音声デジタル音声出力端子(同軸)から出力されます。

メディア	音楽記録方式	“デジタル出力”			
		“ビットストリーム”		“LPCM”	
		“BD-HD音声設定”を “HD音声”に設定時	“BD-HD音声設定”を “複合音声”に設定時	“BD-HD音声設定”を “HD音声”に設定時	“BD-HD音声設定”を “複合音声”に設定時
BDビデオ	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	ドルビーデジタルプラス	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	ドルビーTrueHD	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	DTS®	DTS®	DTS®	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	DTS-HD®	DTS®	DTS®	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	AAC	AAC	AAC	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
DVDビデオ	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		ダウンミックス2ch LPCM	
	DTS®	DTS®		ダウンミックス2ch LPCM	
	LPCM	2ch LPCM		2ch LPCM	
AVCREC	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		ダウンミックス2ch LPCM	
	AAC※	AAC		ダウンミックス2ch LPCM	
	LPCM	ダウンミックス2ch LPCM		ダウンミックス2ch LPCM	
AVCHD	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		ダウンミックス2ch LPCM	
	LPCM	ダウンミックス2ch LPCM		ダウンミックス2ch LPCM	
音楽用CD、MP3		2ch LPCM		2ch LPCM	
DTS-CD		DTS®		ダウンミックス2ch LPCM	

※ デジタル放送で使用されるAAC音声の再生は可能ですが、パソコンなどで記録されたAAC音声の再生はできません。

- 再生するBDビデオにセカンダリー音声やインタラクティブオーディオがない場合は、“BD-HD音声設定”を“複合音声”に設定していても、出力音声は“HD音声”と同様になります。

お知らせ

- 上記の各信号は、“HDMI音声設定”を“音声ミュート”に設定しているときにのみ有効です。
- HDMI出力端子から音声信号が出力されているときに、LPCM信号をデジタル音声出力端子(同軸)から出力するには、“HDMI音声設定”を“HDMI マルチ(LPCM)”に設定してください。

スピーカー設定

“HDMI音声設定”で“HDMIマルチ (LPCM)”に設定すると、スピーカー設定が可能です。

7.1チャンネルや5.1チャンネルのマルチチャンネルサラウンド音声をお楽しみいただくには、下記のスピーカー配置例を参照してお使いのスピーカーを配置し、お好みに応じてスピーカー設定を行なってください。

(オーディオ機器との接続については、“HDMI入力端子付きオーディオ機器に接続する場合” (☞ 17ページ)をご覧ください。)

“HDMI音声設定”で“HDMIマルチ (LPCM)”を選択したあとの操作方法

1 [▲/▼]で設定したい項目を選び、**[決定]**を押す

2 [▲/▼]でさらに設定したい項目を選ぶ
● 1つ前の画面に戻るには、**[戻る ←]**を押してください。

3 [◀/▶]で設定値を選ぶ
● “スピーカー設定”の設定項目、“テストトーン”または“初期化”で設定値を選択する場合は、それぞれ以下の手順で行ないます。

“スピーカー設定”の設定項目の場合：

[決定]を繰り返し押す

“テストトーン”の場合：

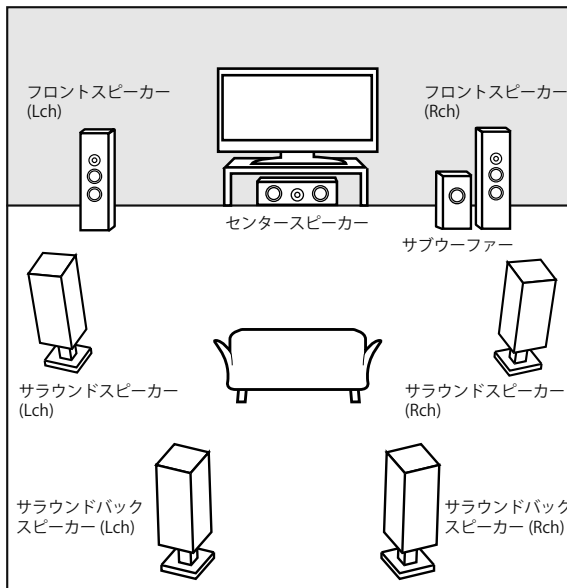
[◀/▶]で“切”、“手動”または“自動”を選び、**[決定]**を押す

- “手動”を選んだ場合は、[▲/▼]で設定したいスピーカーを選び、[◀/▶]でボリュームを調節します。
- “自動”を選んだ場合は、[◀/▶]でテストトーンを出力しているスピーカーの音量を調節します。
- テストトーンを停止させるには、**[戻る ←]**を押してください。

“初期化”の場合：

[決定]を押す

4 [セットアップ]を押し、設定を完了する



基本的な7.1チャンネルサラウンドシステムの配置例

“ 簡単設定” → “HDMI音声設定” → “HDMIマルチ (LPCM)”

“ 詳細設定” → “音声出力設定” → “HDMI音声設定” → “HDMIマルチ (LPCM)”

設定項目	初期設定	その他の設定値	
スピーカー設定 お使いのスピーカーのサイズや性能に合わせた設定が可能です。 低音域出力の強い大型スピーカーは“大”に、低音域出力の弱い小型スピーカーは“小”に設定します。 サブウーファーの設定は変更できません。	フロント	大	
	センター	大	
	サブウーファー	入	-
	サラウンド	大	小
	サラウンドバック	大	小
	初期化	設定したスピーカー設定をすべて初期設定に戻します。	

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

" 簡単設定" → "HDMI音声設定" → "HDMIマルチ (LPCM)"

" 詳細設定" → "音声出力設定" → "HDMI音声設定" → "HDMIマルチ (LPCM)"

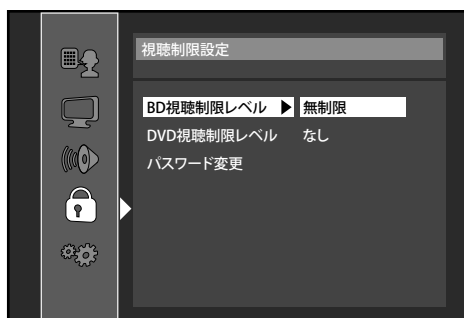
設定項目	初期設定	その他の設定値	
チャンネルレベル お使いのスピーカーから出力される音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカー音量の微調整をします。	テストトーン テストトーンを出力し、それぞれのスピーカー音量を微調整します。	切 テストトーンは出力しません。	
			手動 スピーカーから出力されるテストトーンのボリュームを調節しながら、チャンネルレベルを個別に選んで設定します。
			自動 接続しているスピーカーから、自動でテストトーンが出力されます。ボリュームの調節は手動で行ないます。
	フロント Lch	0dB	0dB ~ -12dB
	センター	0dB	0dB ~ -12dB
	サブウーファー	0dB	0dB ~ -12dB
	フロント Rch	0dB	0dB ~ -12dB
	サラウンド Rch	0dB	0dB ~ -12dB
	サラウンドバック Rch	0dB	0dB ~ -12dB
	サラウンドバック Lch	0dB	0dB ~ -12dB
サラウンド Lch	0dB	0dB ~ -12dB	
初期化	設定したチャンネルレベル設定をすべて初期設定に戻します。		
遅延時間 リスニングポジションに応じて各スピーカーやサブウーファーから出力される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。	距離	メートル	フィート
	フロント	3.6m (12ft)	0m ~ 18m (0ft ~ 60ft)
	センター	3.6m (12ft)	0m ~ 18m (0ft ~ 60ft)
	サラウンド	3.0m (10ft)	0m ~ 18m (0ft ~ 60ft)
	サラウンドバック	3.0m (10ft)	0m ~ 18m (0ft ~ 60ft)
	初期化	設定した遅延時間設定をすべて初期設定に戻します。	

お知らせ

- 本機や接続機器の状態において利用できない項目は灰色で表示され、選択することができません。
- "スピーカー設定"のうち、1つの項目の設定値を変えると、各項目に連動してその他の設定値も自動的に変更されます。
 【例】"フロント"を"小"にした場合、"センター"や"サラウンド"、"サラウンドバック"は"大"に設定できなくなります。）
- "遅延時間"の"フロント"、"サラウンド"、"サラウンドバック"の距離の差は4.5m (15ft)までの範囲で調整できます。また、"フロント"と"センター"の距離の差は1.5m (5ft)までの範囲で調整できます。
- "遅延時間"の"センター"、"サラウンド"、"サラウンドバック"は"フロント"の設定値を超えて設定することはできません。
- "遅延時間"の"センター"、"サラウンド"、"サラウンドバック"の設定値は自動的に"フロント"と同じ値に設定されます。
 【例】"フロント"を18m (60ft)にした場合、"センター"、"サラウンド"、"サラウンドバック"も18m (60ft)に設定されます。）

🔒 視聴制限設定

パスワード設定することでお子様などに見せたくない成人向けのBDビデオ、DVDビデオの再生を制限(禁止)します。設定したレーティングを超えるディスクを再生した場合は再生を停止し、再生を行なうにはパスワードを入力し、設定の解除が必要となります。



1 [▲/▼]で🔒を選び、[決定]を押す

2 数字ボタン[0~9]で4桁のパスワードを入力する

初めて視聴制限を設定する場合：

4737以外の4桁の数字を数字ボタン[0~9]で入力し、パスワードを設定する

(※この数字がパスワードとして設定されますので、忘れないように必ずメモを取っておいてください。)

- パスワードをお忘れの場合は、数字ボタンの[4]、[7]、[3]、[7]を押してください。
パスワードがリセットされ、視聴制限設定は初期設定に戻ります。
- パスワードの入力を間違えた場合は、[クリア]を押すと再入力できます。

3 [▲/▼]で“BD視聴制限レベル”、“DVD視聴制限レベル”または“パスワード変更”を選び、[決定]を押す

“BD視聴制限レベル”の場合

1 [▲/▼]でお好みの設定を選び、[決定]を押す

“無制限” :すべてのディスクの視聴ができます。

“視聴可能年齢設定”：“視聴可能年齢設定”を選ぶと年齢入力画面が表示されます。
数字ボタン[0~9]で設定したい年齢を入力してください。

【例】17歳以下の視聴制限があるBDビデオを再生不可にする場合、
数字ボタンの[0]、[1]、[7]を押します。

2 [セットアップ]を押し、設定を完了する

“DVD視聴制限レベル”の場合

1 [▲/▼]でお好みの設定を選び、[決定]を押す

- “DVD視聴制限レベル”の設定値は、以下の表をご覧ください。

DVD レーティング

なし :制限なく、すべてのディスクの視聴ができます。

レベル8 :年齢に関係なく視聴ができます。

レベル7 :18歳未満のお子様は視聴できません。

レベル6 :18歳未満のお子様は視聴するには保護者の指導が必要です。

レベル5 :保護者同伴での視聴を推奨します。

レベル4 :13歳未満のお子様の視聴には不適切なコンテンツが含まれています。

レベル3 :保護者の方の判断による視聴を提案します。

レベル2 :一般的に視聴できる内容です。

レベル1 :お子様が視聴されても問題のない内容です。

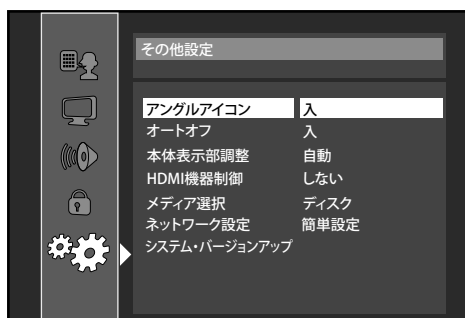
2 [セットアップ]を押し、設定を完了する

“パスワード変更”の場合

1 数字ボタン[0~9]で4桁の新しいパスワードを入力し、[決定]を押す

2 [セットアップ]を押し、設定を完了する

その他設定



- 操作方法については、“ 詳細設定”をご覧ください。(☞ 37ページ)
- が付いている項目は、“ 簡単設定” (☞ 37ページ) でも設定することができます。

設定項目	設定項目/初期設定	詳細/その他の設定値
アングルアイコン マルチアングル機能の付いたBD、DVDの再生中、カメラアングルを切り換えられる場面でアングルアイコンを表示するように設定します。	入 アングルアイコンを表示します。	切 アングルアイコンを表示しません。
オートオフ 一定時間、本機が無操作の状態にあるとき本機の電源を自動的に切るように変更できます。	入 無操作状態が約25分つづくとき、自動的に本機の電源を切ります。	切 操作をしない状態がつづいても、本機の電源は自動的に切れません。
本体表示部調整 本体表示パネルの照度を設定できます。	自動 再生中は暗く、停止中は明るくなります。	明 表示パネルを明るくします。
		暗 表示パネルを暗くします。
HDMI機器制御 HDMIケーブルでHDMI機器制御に対応しているテレビと本機を接続している場合、本機の動作とテレビの動作を連動して行なえる“HDMI機器制御”を使用することができます。詳しくは“HDMI機器制御について”(☞49ページ)をご覧ください。	しない HDMI機器制御を使用しません。	する 本機とHDMI機器制御に対応しているテレビを連動して操作することができます。
メディア選択 再生するメディア(ディスクまたはSDカード)を選択します。	ディスク BD、DVD、音楽用CDなどディスクの再生を行なうときに選択します。	SDカード SDカードからの再生を行なうときに選択します。
ネットワーク設定 各設定の詳細については、“ネットワーク設定”(☞50ページ)をご覧ください。	接続テスト	ネットワーク接続が正しくできているか確認します。
	簡単設定	ネットワーク接続設定を一括して初期設定に簡単設定します。
	詳細設定	ネットワーク接続設定を、お使いのネットワーク環境の必要に応じて詳細に設定します。
	接続無効	ネットワーク接続を無効にします。

設定項目	設定項目/初期設定		詳細/その他の設定値
システム・バージョンアップ	現在のバージョン		現在の本機のファームウェアを表示します。
	ディスクアップデート	いいえ ディスクアップデートを実行しません。	はい ディスクアップデートを実行し、本機のファームウェアを更新します。
	ネットワークアップデート	いいえ ネットワークアップデートを実行しません。	はい インターネットを通して、ネットワークアップデートを実行し、本機のファームウェアを更新します。

HDMI機器制御について

HDMI機器制御に対応しているテレビと本機を HDMI端子を使用して接続し、“HDMI機器制御”の設定を“する”に設定した場合、本機の動作とテレビの動作を連動して行なえる “HDMI機器制御”が使えます。HDMI機器制御では、以下の操作が可能になります。

- この機能は、お使いのテレビによっては正しく動作しない場合があります。
- HDMI機器制御機能(HDMI CEC機能)がある製品のすべてに対応しているわけではありません。

ワンタッチプレイ

本機とテレビの電源がオンの場合、本機リモコン[再生 ▶]を押すと、テレビの入力切替が自動的に切り換わり、再生が始まります。本機とテレビの電源がオフの場合、[再生 ▶]を押すと、本機とテレビの電源がオンになり、テレビの入力切替が自動的に切り換わり、再生が始まります。

(ディスク挿入時に限り、[トップメニュー] または [ポップメニュー/メニュー]を押すと、テレビの入力切替が自動的に切り換わり、メニュー画面が表示されます。)

自動的に電源を入れる、切る

[電源]、または[トレイ開閉 ▲]のいずれかを押すと、本機の電源がオンになり、テレビの電源も自動的にオンになります。本機の[電源]を2秒以上長押しすると、テレビと本機の電源がオフになります。また、テレビの電源を切ると本機の電源も自動的にオフになります。

テレビのリモコンで本機を操作する

テレビのリモコンで本機を操作できます。詳細については、テレビの取扱説明書をお読みください。

- この機能は、お使いのテレビによっては正しく動作しない場合があります。
- お使いのテレビのリモコンによって、操作できる内容が変わります。

ネットワーク設定

ネットワークアップデートや、BD-Live機能付きのディスクをお楽しみいただくには、本機をインターネットに接続し、以下のネットワーク設定を行なってください。

- 接続方法については、“ネットワーク接続”(☞ 18ページ)をご覧ください。

接続テスト

本機をLANケーブルで接続したあとや、IPアドレスやDNS設定を変更したあとには接続テストを行ない、ネットワークに接続できるかを確認してください。

1 再生の停止中に[セットアップ]を押す

2 [▲/▼]で  を選び、[決定]を押す

3 [▲/▼]で  を選び、[決定]を押す

4 [▲/▼]で“ネットワーク設定”を選び、[決定]を押す

5 [▲/▼]で“接続テスト”を選び、[決定]を押す

- 接続テストが始まり、完了後にテスト結果が表示されます。
“成功”：ネットワーク接続が完了し、使用できる状態です。
“失敗”：接続と設定を確認してください。
- テスト結果表示中に[決定]を押すと、設定値のリストが表示されます。



6 [セットアップ]を押し、設定を完了する

お知らせ

- 接続テストに成功した場合、ネットワーク接続は正常にお使いいただける状態になっています。その他のネットワーク接続設定を行なう必要はありません。
- 接続テストに失敗した場合、本機のMACアドレスをお使いのルーター側で設定が必要な場合があります。本機のMACアドレスは、“詳細設定”画面の一番下で確認できます。詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください。
- “ネットワーク設定”を“接続無効”(☞ 53ページ)に設定している場合、“接続テスト”を実行できません。

簡単設定

ネットワーク接続設定は、それぞれ下記の通り初期設定されています。(ほとんどの場合、初期設定のまま接続が可能です。初期設定で接続できない場合は、“詳細設定”(☞ 51ページ)で、必要な設定を行なってください。)

- “IPアドレス自動取得”：する
- “DNS-IP自動取得”：する
- “プロキシ設定”：しない
- “接続速度設定”：自動
- “BD-Live接続設定”：有効

- 接続設定を初期設定に戻したいときは、下記の手順で設定を行なってください。

1 “接続テスト”(☞ 50ページ)の手順1～4を行なう

2 [▲/▼]で“簡単設定”を選び、[決定]を押す

- 接続テストが始まり、完了後にテスト結果が表示されます。
“成功”：ネットワーク接続が完了し、使用できる状態です。
“失敗”：接続と設定を確認してください。
- テスト結果表示中に[決定]を押すと、設定値のリストが表示されます。

3 [セットアップ]を押し、設定を完了する

お知らせ

- “BD-Live接続設定”は、上記の手順にしたがっても初期値に戻りません。“BD-Live接続設定”の設定の変更については、☞ 53ページをご覧ください。

詳細設定

お使いのネットワーク環境により、詳細なネットワーク設定が必要なときは、必要に応じて設定を変更してください。

IPアドレス自動取得

IPアドレスは、通常はルーターが自動で割り当てるので、設定の必要はありません。お使いのルーターにDHCPサーバー機能がないなど、自動でIPアドレスが割り当てられない場合は、下記の手順で設定してください。

1 再生の停止中に[セットアップ]を押す

2 [▲/▼]で  を選び、[決定]を押す

3 [▲/▼]で  を選び、[決定]を押す

4 [▲/▼]で“ネットワーク設定”を選び、[決定]を押す

5 [▲/▼]で“詳細設定”を選び、[決定]を押す

6 [▲/▼]で“IPアドレス自動取得”を選ぶ

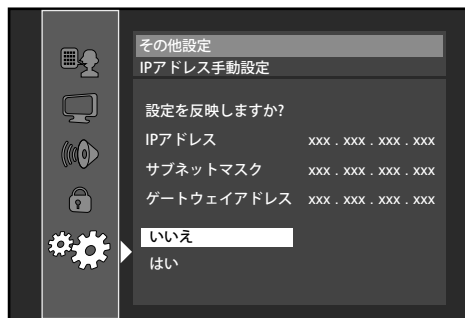
7 [決定]を繰り返し押し、“しない”を選ぶ

8 [▲/▼]で“IPアドレス”を選び、[決定]を押す

- IPアドレス入力画面が表示されます。
- [▲/▼/◀/▶]と数字ボタン[0~9]で“IPアドレス”、“サブネットマスク”、“ゲートウェイアドレス”を入力してください。
- “IPアドレス”は、パソコンを確認してパソコンと違った値を入力してください。“サブネットマスク”、“ゲートウェイアドレス”には、それぞれパソコンと同じ値を入力してください。



- 入力完了後、[決定]を押すと確認画面が表示されます。[▲/▼]で“はい”を選び、[決定]を押してください。



9 [セットアップ]を押し、設定を完了する

DNS-IP自動取得

通常は設定する必要はありませんが、お使いのルーターにDHCPサーバー機能がないなど、手動でプライマリDNSとセカンダリDNSを設定する必要がある場合は、下記の手順で設定してください。

1 “IPアドレス自動取得” (👉 51ページ)の手順 1 ~ 5 を行なう

2 [▲/▼]で“DNS-IP自動取得”を選ぶ

3 [決定]を繰り返し押し、“しない”を選ぶ

4 [▲/▼]で“プライマリDNS”を選び、[決定]を押す

- DNS入力画面が表示されます。
[▲/▼/◀/▶]と数字ボタン[0~9]で“プライマリDNS”、“セカンダリDNS”を入力してください。
- パソコンを確認し、パソコンの優先DNSサーバーと代替DNSサーバーと同じ値を、それぞれ“プライマリDNS”と“セカンダリDNS”に入力してください。



ご使用になる前に

接続する

再生する

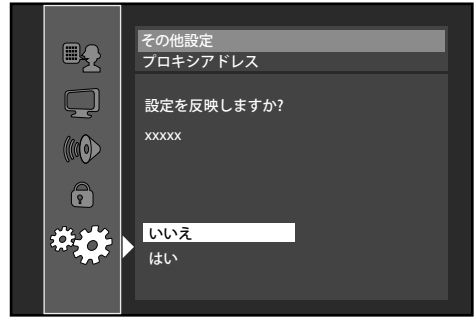
設定

その他

- 入力完了後、[決定]を押すと確認画面が表示されます。[▲/▼]で“はい”を選び、[決定]を押してください。



- 入力完了後、[黄]を押すと確認画面が表示されます。[▲/▼]で“はい”を選び[決定]を押すと、“プロキシ設定”の画面に戻ります。



5 [セットアップ]を押し、設定を完了する

プロキシ設定

通常は設定する必要はありませんが、お使いのインターネットプロバイダーから指示がある場合は、以下の手順で設定してください。

1 “IPアドレス自動取得”(☞ 51ページ)の手順1～5を行なう

2 [▲/▼]で“プロキシ設定”を選ぶ

3 [決定]を繰り返し押し、“する”を選ぶ

- “プロキシアドレス”と“プロキシポート番号”をそれぞれ以下の手順で入力してください。

“プロキシアドレス”

1 [▲/▼]で“プロキシアドレス”を選び、[決定]を押す

- 入力画面が表示されます。



2 下記のボタンで“プロキシアドレス”を入力する

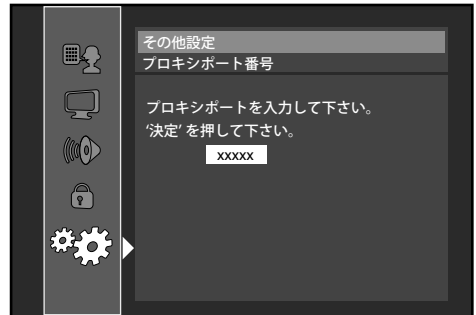
- [▲/▼/◀/▶]: 選択箇所の移動
- 数字ボタン[0~9]: 数字の入力
- [決定]: 選択されている数字/文字の入力
- [青]: 入力した数字/文字を消す
- [赤]: 入力したすべての数字/文字を消す
- [緑]: 入力する文字の切り換え (abc→ABC→@!?)
- [黄]: 入力した数字/文字を決定する

“プロキシポート番号”

1 [▲/▼]で“プロキシポート番号”を選び、[決定]を押す

- 入力画面が表示されます。

2 数字ボタン[0~9]で“プロキシポート番号”を入力する



- 入力完了後、[決定]を押します。

4 [セットアップ]を押し、設定を完了する

“IPアドレス自動取得”と“DNS-IP自動取得”の手動設定について

- 0～255までの数字を入力してください。255より大きい数字を入力した場合、自動的に255として入力されます。
- 手動で入力した値は、設定を“する”に変更しても保存されます。
- 間違った数字を入力した場合は、[クリア]を押してください。(自動的に“0”に戻ります。)
- 1つのセル内に1桁または2桁の数字を入力し、次のセルに移動するときは、[▶]を押してください。
- “IPアドレス”、“ゲートウェイアドレス”、または“プライマリDNS”で入力した値が初期設定の値と同じ場合は、“IPアドレス自動取得”は“する”に設定されます。
- “IPアドレス自動取得”が“しない”に設定されている場合、“DNS-IP自動取得”も自動的に“しない”に設定されます。また、“IPアドレス自動取得”が“する”に設定されている場合は、“DNS-IP自動取得”は“する”または“しない”のどちらにも設定できます。

“プロキシ設定”について

- プロキシポートでは、0～65535までの数字を入力してください。65535より大きい数字を入力した場合、自動的に65535として入力されます。
- お使いのネットワーク環境によっては、“プロキシポート番号”で設定したポートが使用できない場合もあります。

接続速度設定

通常は設定する必要はありませんが、接続するネットワークの環境に合わせて設定が必要な場合は、以下の手順で設定してください。

- 1 “IPアドレス自動取得”(☞ 51ページ)の手順1～5を行なう
- 2 [▲ / ▼]で“接続速度設定”を選び、[決定]を押す
- 3 [▲ / ▼]でお好みの設定を選び、[決定]を押す
 - “自動” : お使いのネットワーク環境に合わせて、自動で接続速度を設定します。
 - “10BASE半二重” : 接続速度を“10BASE半二重”に設定します。
 - “10BASE全二重” : 接続速度を“10BASE全二重”に設定します。
 - “100BASE半二重” : 接続速度を“100BASE半二重”に設定します。
 - “100BASE全二重” : 接続速度を“100BASE全二重”に設定します。
- 4 [セットアップ]を押し、設定を完了する

お知らせ

- ネットワーク環境に合わせた接続速度を設定してください。
- お使いの機器によっては、“接続速度設定”を変更するとネットワーク接続ができなくなる場合があります。

BD-Live接続設定

BD-Live機能で使用するインターネットアクセスを制限できます。

- 1 “IPアドレス自動取得”(☞ 51ページ)の手順1～5を行なう
- 2 [▲ / ▼]で“BD-Live接続設定”を選び、[決定]を押す
- 3 [▲ / ▼]でお好みの設定を選び、[決定]を押す
 - “有効” : BD-Liveコンテンツからのすべてのインターネットアクセスを許可します。
 - “有効(制限つき)” : 証明書をもつBD-Liveコンテンツからのインターネットアクセスのみ許可します。
 - “無効” : BD-Liveコンテンツからのすべてのインターネットアクセスを禁止します。
- 4 [セットアップ]を押し、設定を完了する

接続無効

すべてのネットワーク接続を無効にします。

- 1 “IPアドレス自動取得”(☞ 51ページ)の手順1～4を行なう
- 2 [▲ / ▼]で“接続無効”を選び、[決定]を押す
- 3 [セットアップ]を押し、設定を完了する



お知らせ

- ネットワーク接続を再度有効にするには、“ネットワーク設定”を“簡単設定”か“詳細設定”に設定してください。

システム・バージョンアップ

現在のバージョン

本機の現在のファームウェアのバージョンを確認できます。

- 1 再生の停止中に[セットアップ]を押す
- 2 [▲/▼]で  を選び、[決定]を押す
- 3 [▲/▼]で  を選び、[決定]を押す
- 4 [▲/▼]で“システム・バージョンアップ”を選び、[決定]を押す
- 5 [▲/▼]で“現在のバージョン”を選び、[決定]を押す
 - 現在のファームウェアのバージョンが表示されます。



- 6 [決定]または[戻る←]を押し、設定を完了する

お知らせ

- 最新のファームウェアのダウンロードは、<http://www.funai-service.co.jp/bd/download/index.html>で行なってください。お手持ちのパソコンから、上記のURLを開き、ホームページの指示にしたがい、最新のファームウェアを書き込んだディスクを作成してください。
- 本機をインターネットに接続することで、インターネットからアップデートを行なう、ネットワークアップデートを使用することができます。

ディスクアップデート

インターネットでダウンロードした最新のファームウェアを書き込んだディスクを使用し、本機のファームウェアのバージョンをアップデートします。

- 1 “現在のバージョン”(☞ 54ページ)の手順1～4を行なう

- 2 [▲/▼]で“ディスクアップデート”を選び、[決定]を押す

- 3 [▲/▼]で“はい”を選び、[決定]を押す
 - ディスクトレイが自動的に開きます。

- 4 最新のファームウェアを書き込んだディスクをディスクトレイに置き、[トレイ開閉 ▲]を押す

- 5 確認画面が表示されます。[▲/▼]で“はい”を選び、[決定]を押す
 - ファームウェアのアップデートを開始します。
 - アップデートが完了するまで、数分かかることがあります。本体表示部に“100%”と表示されるまでお待ちください。
 - アップデート完了後、本機は自動的に再起動しディスクを排出します。

お知らせ

- 現在のファームウェアのバージョンは、“現在のバージョン”(☞ 54ページ)で確認できます。
- “ディスクアップデート”実行中は、電源コードを抜かないでください。
- ファームウェアをアップデートしても、すべての設定内容は変わりません。

ネットワークアップデート

本機をインターネットに接続することで、最新のファームウェアにアップデートできます。

- 1 “現在のバージョン”(☞ 54ページ)の手順1～4を行なう

- 2 [▲/▼]で“ネットワークアップデート”を選び、[決定]を押す

- 3 [▲/▼]で“はい”を選び、[決定]を押す
 - 最新のファームウェアを確認します。

- 4 確認画面が表示されます。[▲/▼]で“はい”を選び、[決定]を押す
 - ファームウェアのアップデートを開始します。
 - アップデートが完了するまで、数分かかることがあります。本体表示部に“100%”と表示されるまでお待ちください。

お知らせ

- ネットワークアップデートを行なうために、必ず本機をインターネットにつなぎ(☞ 18ページ)、“ネットワーク設定”(☞ 50ページ)を行なってください。
- “ネットワークアップデート”実行中は、電源コードを抜かないでください。
- ファームウェアをアップデートしても、すべての設定内容は変わりません。

初期化

本機の設定を初期設定に戻すときや、SDカードのフォーマット(初期化)などを行ないます。

1 再生の停止中に[セットアップ]を押す

2 [▲ / ▼]で  を選び、[決定]を押す

3 [▲ / ▼]で設定したい項目を選び、[決定]を押す

“設定初期化”

“メディア選択”、“視聴制限設定”、“ネットワーク設定”を除くすべての本機設定を初期設定に戻します。

“SDカードフォーマット”

本機に挿入しているSDカードをフォーマットします。

“BD-ROMデータ消去(本機)”

BDビデオの再生時に使用されるメモリーデータ(本機)を消去します。

“BD-ROMデータ消去(SDカード)”

BDビデオの再生時に使用されるメモリーデータ(SDカード)を消去します。

“ネットワーク設定初期化”

ネットワーク設定をすべて初期設定に戻します。

4 確認画面が表示されます。
[▲ / ▼]で“はい”を選び、[決定]を押す

- キャンセルする場合は、“いいえ”を選び、[決定]を押してください。

5 再度[決定]を押す

6 [セットアップ]を押し、設定を完了する

ご注意

- “SDカードフォーマット”と“BD-ROMデータ消去(SDカード)”の実行中はSDカードを抜かないでください。SDカード上のデータを損傷することがあります。
- ブルーレイ・ディスクが本機に挿入されているときは、“SDカードフォーマット”と“BD-ROMデータ消去(SDカード)”を実行することができません。

故障かな?と思ったときは

この取扱説明書にそって操作しても正常に働かないときは、下記を参照しながら点検してください。
点検されても直らないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	原因と対応のしかた
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> - 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。 - 一度電源プラグをコンセントから抜き、5～10秒後に再びコンセントに差し込んでください。
映像が映らない、または音声がでない	<ul style="list-style-type: none"> - テレビの電源は入っていますか。 - 接続をしている機器やスピーカーの接続を確認してください。 - 本機を接続したテレビやAVアンプなどはHDCPに対応していますか。HDCPに対応していない機器を接続した場合は、正常に映像が出力されません。お手持ちのテレビやAVアンプなどについては取扱説明書をご覧ください。 - 映像または音声出力の選択は正しく行なわれていますか。
HDMIケーブルでつないでいるときに、映像が映らない、または音声がでない	<ul style="list-style-type: none"> - HDMIロゴ(HDMI)の表示があるケーブルをお使いですか。 - 電源を入れたまま、HDMIケーブルをテレビと本機から抜き挿ししてみてください。
映像が映らない、または映像が乱れる BDビデオやDVDビデオの映像が、白黒画像になる	<ul style="list-style-type: none"> - 早送り/早戻しをした直後などに、多少画像が乱れることがありますが、故障ではありません。 - 本機は直接テレビに接続するか、AVアンプを経由してテレビに接続してください。VTR(ビデオテープレコーダー)経由で接続しないでください。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクをVTRを通して再生するとコピーガードシステムにより、画面が乱れることがあります。 - 本機で対応しているディスクかお確かめください。 - 本機が対応していないディスクや、異なるリージョンコードのディスクが入っていませんか。(本機が対応しているリージョンコードは、BDビデオは「A」、DVDビデオは「2」または「ALL」です。)
3D映像がテレビに映らない	<ul style="list-style-type: none"> - テレビは3D対応ですか。 - HDMIケーブルの接続を確認してください。 - "3D出力設定"を"自動(xx)"に設定してください。 - 3Dグラスの電源は入っていますか。 - 3Dグラスをかけて、テレビとの同期を確認してください。 - 3D対応テレビ、3Dグラスの取扱説明書をお読みください。
音声がでない、または途切れる	<ul style="list-style-type: none"> - 音量を調節してください。 - スピーカーは正しく接続されていますか。 - HDMIケーブルの接続を確認してください。 - "音声出力設定"(☞ 41ページ)の設定をお確かめください。
再生中に一瞬画像が止まる	<ul style="list-style-type: none"> - ディスクにキズがあったり、指紋などで汚れている場合は、正常に再生できない場合があります。ディスクを清掃したり、キズのないディスクと取り換えて再生してください。 - ディスクに記録されたデータに問題がある可能性があります。
ディスクが再生できない	<ul style="list-style-type: none"> - ディスクを清掃してください。 - ディスクの印刷されている面を上にして正しく入れ直してください。 - ほかのディスクで再生できるかお確かめください。ほかのディスクで再生ができる場合、ディスクに不具合がある可能性があります。 - 視聴制限を解除するか、"視聴制限設定"(☞ 47ページ)を変更してください。 - 再生できないディスクが入っていませんか。
SDカードが読み込まれない	<ul style="list-style-type: none"> - 互換性のないカードが入っている恐れがあります。または、本機が対応していない記録フォーマットは認識しません。
ディスクを取り出しても通常の画面に戻らない	<ul style="list-style-type: none"> - 内部エラーが発生している可能性があります。 - 一度電源を切り、しばらく経ってから再び電源を入れてください。
リモコンで操作できない	<ul style="list-style-type: none"> - リモコン受光部に向けて操作していますか。 - リモコン受光部から離れたところから操作していませんか。 - 新しい乾電池に交換してください。 - ⊕ ⊖を確かめて正しく乾電池を入れてください。
ボタン操作ができない、または本機が反応しない	<ul style="list-style-type: none"> - 本体の【電源】を10秒以上長押しして本機をリセットするか、一度電源プラグをコンセントから抜き、5～10秒後に再びコンセントに差し込んでください。
再生中に操作ができない	<ul style="list-style-type: none"> - ディスクによってはその操作を禁止している場合があります。 - ディスクの説明書をお読みください。

症状	原因と対応のしかた
再生可能ディスクが読み込まれない	<ul style="list-style-type: none"> - 本機内部で結露が発生している可能性があります。電源を「入」にしたまましばらく放置し、本体内部を乾かしてください。 - "再生できるディスクとファイル" (☞ 19ページ)に記載しているディスクかお確かめください。 - ディスクを清掃してください。
アングルを変更できない	<ul style="list-style-type: none"> - 複数のアングルが記録されていないBDビデオまたはDVDビデオは、アングルを切り換えられません。 また、特定の場面のみ複数のアングルが記録されているものがあります。
タイトルを選択しても再生が始まらない	<ul style="list-style-type: none"> - 視聴制限によって再生を禁止している可能性があります。 "視聴制限設定" (☞ 47ページ)の設定を確認してください。
視聴制限で設定したパスワードを忘れた	<ul style="list-style-type: none"> - パスワード入力画面で[4]、[7]、[3]、[7]を入力すると、登録されていたパスワードが消去されます。 新たなパスワードを設定し直してください。
ネットワーク接続ができない	<ul style="list-style-type: none"> - LANケーブルの接続は正しくできていますか。 - モデムまたはルーターの電源は入っていますか。 - ネットワーク設定は正しくできていますか。 - モデムまたはルーターの接続は正しくできていますか。 - "BD-Live接続設定" (☞ 53ページ)を確認してください。
パソコンでインターネット接続中に本機がネットワークにつながらない	<ul style="list-style-type: none"> - お使いのインターネットサービスのご契約内容を確認し、複数の端末からの同時接続がプロバイダーで防がれていないか確認してください。
BD-Live機能が使えないまたはデータのダウンロードが正しく行なわれない	<ul style="list-style-type: none"> - 十分な空き容量 (1 GB以上)があるSDカードは挿入されていますか。 - SDカードが正しく挿入されているか確認してください。
BD-Live機能付きのBDビデオ (BD-ROMプロファイル2.0)が再生できない	<ul style="list-style-type: none"> - 本機で初期化した1 GB以上の空き容量があるSDカードを挿入して再生してください。BD-Live対応ディスクには、再生時にメモリーを必要とするものがあります。

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

お知らせ

- 機能によっては一部の操作状態で利用できないことがありますが、これは故障ではありません。正しい操作方法については、本文の説明をよくお読みください。
- ディスクによっては使えない機能もあります。

用語解説

AAC(エーエーシー)

Advanced Audio Codingの略で、音声符号化の規格の一つです。AACは、CD並の音質データを約1/12にまで圧縮できます。また、5.1chのサラウンド音声や多言語放送を行なうこともできます。

AVCHD

AVCHDは、ビデオカメラで撮影した高精細なハイビジョン映像を8cmDVD記録用ディスクまたはSDカード上に記録できる、新しいフォーマットの名称です。

AVCREC

AVCRECは、ハイビジョン映像をDVDに記録するための規格の名称です。

BD-J (Java) (ビーディージェイ)

BDビデオでは、Javaアプリケーションを利用した、よりインタラクティブな機能(ゲームなど)を楽しめるソフトがあります。

BD-Live

BD-Liveは、BDビデオ(BD-ROMプロファイル2.0)の新しい再生機能で、インターネットに接続し、追加映像や追加字幕のダウンロード、BD-Jによる通信対応ゲームなどのインタラクティブな機能を利用できます。

DNSサーバー

DNSサーバーは、インターネット上でドメインネームからIPアドレスを調べる機能を持ったサーバーです。

DTS®(ディーティーエス)

Digital Theater Systemの略で、DTS社が開発した、デジタル音声システムです。DTS対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS-HD®(ディーティーエスエイチディー)

ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用された、従来のDTS®をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイ・ディスクでは、最大7.1チャンネルまで対応しています。

HDCP(エイチディーシーピー)

機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の一つです。

HDMI(エイチディーエムアイ)

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、BD/DVDレコーダーやBD/DVDプレーヤーなどと接続できるAV用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を1本のケーブルで接続できます。

IPアドレス

IPアドレスは、ネットワークに接続された機器を識別する番号のことです。

JPEG

Joint Photographic Experts Groupの略で、静止画像データの圧縮方式の一つです。データサイズを小さくできるので、広く使われています。

LAN (Local Area Network)

一定範囲内(会社や学校、家庭内等)のネットワークのことです。

LPCM (リニアPCM)

PCMはPulse Code Modulationの略で、LPCMはデジタル音声をそのまま圧縮せずに記録する方式です。

MPEG (エムペグ)

Moving Picture Experts Groupの略で、動画音声圧縮方式の国際標準です。BDやDVDの映像は、この方式で記録されています。

アスペクト比

テレビ画面の縦横比率です。従来の標準テレビ画面の比率は4:3で、ワイドスクリーンテレビの画面の比率は16:9です。

インタラクティブオーディオ

BDビデオのタイトルなどに収録されている、操作しているときのクリック音などの音声です。

ゲートウェイアドレス

インターネットアクセスする際に使用する機器(ルーター等)のIPアドレスのことをいいます。

コピーガード

複製防止機能のことです。著作権保護のため、著作権者などによって複製を制限する信号が記録されているソフトや番組を録画することはできません。

サブネットマスク

ルーターにつなぐ機器のIPアドレスを絞りこむための数字です。

タイトル

BDビデオやDVDビデオに複数の映画が入っているときなど、各映画の題名(タイトル)などをいいます。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

チャプター

タイトルの中にある章をチャプターといいます。

トラック

音楽用CDの各曲ごとの区切りのことを「トラック」といいます。

ドルビーTrueHD

ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用されたロスレス符号化技術で、7.1チャンネルに対応しています。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズが開発した立体音響効果のことです。最大5.1チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオシステムです。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして採用されているドルビーデジタルと同一のシステムです。

ドルビーデジタルプラス

ドルビーデジタルの拡張版で、ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用された高音質デジタル音声技術です。

ビットストリーム

圧縮されてデジタル信号に置き換えられた信号のことで、対応しているアンプなどによってそれぞれに合った信号に変換されます。

ファイナライズ

本機で録画したDVD-RW、DVD-Rを、ほかのDVDプレーヤーなどで再生できるようにする機能です。

ブルーレイ・ディスク

片面1層のディスクで25GBの容量を持つ、ハイビジョン映像の映画やゲームなどの記録に対応したディスクです。

プレイリスト

オリジナルの映像とは別に編集用に作成された映像のことで、オリジナルの映像のお好みのシーンを順番に再生することができます。

マルチボーダー(マルチセッション)

データの開始と終わりを表すデータ部分のことを「ボーダー(セッション)」と呼びます。マルチボーダーとは、1枚のディスクに追記などによって、データの開始と終わりを表すボーダー(セッション)が複数ある状態を言います。

リージョンコード

BDビデオやDVDビデオを再生できる国や地域を示すコードです。本機では、BDビデオのリージョンコードは「A」、DVDビデオのリージョンコードは「2」または「ALL」のビデオソフトを再生することができます。

言語コード一覧

言語名(順不同)	言語コード	言語名(順不同)	言語コード	言語名(順不同)	言語コード	言語名(順不同)	言語コード
アフアル語	4747	フリジア語	5271	ラトビア語、レット語	5868	スロバキア語※	6557
アブアジア語	4748	アイルランド語※	5347	マダガスカル語	5953	スロベニア語	6558
アフリカーンス語	4752	スコットランドゲール語	5350	マオリ語	5955	サモア語	6559
アムハラ語	4759	ガルシア語	5358	マケドニア語	5957	シヨナ語	6560
アラビア語	4764	グアラニ語	5360	マラヤーラム語	5958	ソマリ語	6561
アッサム語	4765	グジャラート語	5367	モンゴル語	5960	アルバニア語	6563
アイマラ語	4771	ハウサ語	5447	モルダビア語	5961	セルビア語	6564
アゼルバイジャン語	4772	ヒンディ語	5455	マラータ語	5964	シスワティ語	6565
バジキール語	4847	クロアチア語	5464	マレー語	5965	セストゥ語	6566
ベラルーシ語	4851	ハンガリー語※	5467	マルタ語	5966	スندا語	6567
ブルガリア語※	4853	アルメニア語	5471	ミャンマー語	5971	スウェーデン語※	6568
ビハーリー語	4854	国際語	5547	ナウル語	6047	スワヒリ語	6569
ビスラマ語	4855	国際語	5551	ネパール語	6051	タミール語	6647
ベンガル語、バンガラ語	4860	イヌピック語	5557	オランダ語※	6058	テルグ語	6651
チベット語	4861	インドネシア語	5560	ノルウェー語※	6061	タジク語	6653
ブルトン語	4864	アイスランド語※	5565	プロバンス語	6149	タイ語	6654
カタロニア語	4947	イタリア語※	5566	アフアン語、オロモ語	6159	ティグリニャ語	6655
コルシカ語	4961	ヘブライ語	5569	オリヤー語	6164	トゥルクメン語	6657
チェコ語※	4965	日本語※	5647	パンジャブ語	6247	タガログ語	6658
ウェールズ語	4971	イディッシュ語	5655	ポーランド語※	6258	セツワナ語	6660
デンマーク語※	5047	ジャワ語	5669	パシュトー語	6265	トンガ語	6661
ドイツ語※	5051	グルジア語	5747	ポルトガル語※	6266	トルコ語※	6664
ブータン語	5072	カザフ語	5757	ケチュア語	6367	ツォンガ語	6665
ギリシャ語※	5158	グリーンランド語	5758	ラエティ=ロマン語	6459	タタール語	6666
英語※	5160	カンボジア語	5759	キルンディ語	6460	トウィ語	6669
エスペラント語	5161	カナダ語	5760	ルーマニア語※	6461	ウクライナ語	6757
スペイン語※	5165	韓国語※	5761	ロシア語※	6467	ウルドゥ語	6764
エストニア語	5166	カシミール語	5765	キニャルワンダ語	6469	ウズベク語	6772
バスク語	5167	クルド語	5767	サンスクリット語	6547	ベトナム語	6855
ペルシャ語	5247	キルギス語	5771	シンド語	6550	ボラビュク語	6861
フィンランド語※	5255	ラテン語	5847	サンゴ語	6553	ウォロフ語	6961
フィジー語	5256	リンガラ語	5860	セルビアクロアチア語	6554	コーサ語	7054
フェロー語	5261	ラオス語	5861	シンハラ語	6555	ヨルバ語	7161
フランス語※	5264	リトアニア語	5866			中国語※	7254
						ズール語	7267

お知らせ

● [音声]または[字幕]を押したとき、※の付いている言語はそれぞれの言語名が表示され、それ以外の言語は"---"で表示されます。

主な仕様

一般

形名	DXBP1TD
信号方式	NTSC方式
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	12W
待機時消費電力	0.5W
許容動作温度	5℃～35℃
許容湿度	80%最大
外形寸法	435(幅)×51(高さ)×218(奥行)mm
質量	約2.3kg(梱包含まず)

端子部

映像出力	Y出力レベル:	1.0Vp-p (75Ω)
	出力端子:	ピンジャック 1 系統
コンポーネント映像出力	Y出力レベル:	1.0Vp-p (75Ω)
	PB/CB、PR/CR出力レベル:	0.7Vp-p (75Ω)
	出力端子:	ピンジャック 1 系統
HDMI出力	Type A端子(19ピン) 1 系統	
音声出力	出力レベル:	2.0Vrms (1.0kΩ)
	出力端子:	ピンジャック 1 系統
同軸デジタル音声出力	ピンジャック 1 系統 0.5Vp-p (75Ω)	
LAN端子	1 系統 (10BASE-T/100BASE-TX)	

お知らせ

- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本製品に使用されるソフトウェアについて

本製品に組み込まれたソフトウェアは、複数のソフトウェアコンポーネントで構成されており、それぞれのソフトウェアコンポーネントには、当社または第三者の著作権が存在します。

● 本製品は、LibJPEG を使用しています。

本製品の一部分に、Independent JPEG Group が開発したモジュールが含まれています。

● 本製品は、FreeType を使用しています。

The FreeType Project is copyright (C) 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved.

THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED `AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

● 本製品は、OpenSSL を使用しています。

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)
Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

● 本製品には、GNU General Public License (以下、GPL) およびGNU Lesser General Public License (以下、LGPL) に基づき利用許諾されるソフトウェアが搭載されています。

GPLソフトウェア : linux, module-init-tools, mount, nettools, sash

LGPLソフトウェア : directfb, glibc

本製品に組み込まれたGPLソフトウェアおよびLGPLソフトウェアについて、お客様にこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。当該ソースコードは現状有姿で提供され、当社は、当該ソースコードに関し、第三者の権利を侵害していないという保証、特定目的への適合性についての保証等、いかなる保証責任または担保責任も負いません。また、当該ソースコードに関して発生するいかなる問題も、お客様の責任と費用負担で解決されるものとします。組み込まれたGPLソフトウェアおよびLGPLソフトウェアの入手方法については、以下の連絡先にご連絡ください。

(連絡先)

〒652-0807

兵庫県神戸市兵庫区浜崎通2番15号 DXアンテナ株式会社

なお、オープンソースのソースコードの内容に関するお問い合わせはご遠慮ください。

当社または第三者が著作権を持つソフトウェアについては、ソースコードの配布対象ではありません。

GPL、LGPLの使用条件につきましては次項以下のGPLおよびLGPLの原文を参照して下さい。

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b) above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source code along with the object code.

- 4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
- 5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through this system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

- 11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
- 12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and an idea of what it does.
Copyright (C) yyyy name of author

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.
If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type 'show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type 'show c' for details.

The hypothetical commands 'show w' and 'show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than 'show w' and 'show c'; they could even be mouse-clicks or menu items—whatever suits your program.
You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

Yoodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program "Gnomovision" (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages—typically libraries—of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables. The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy. This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License. However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the Library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:
 - a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
 - b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.
8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.
10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.
11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances. It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice. This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.
12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the library's name and an idea of what it does.
Copyright (C) year name of author

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail. You should also give your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

メモ

保証とアフターサービス

1) 保証書（梱包箱に貼り付けしてあります。）

保証書に販売店名と購入日（購入日を証明する納品書や領収書）がありませんと保証期間内でも万一故障がある場合に有償修理になることがあります。内容をご確認の上、本取扱説明書と共に大切に保管してください。

2) 保証期間はお買い求めの日から1年間です。

本機は一般家庭用として作られています。各種の消耗部品については、業務用や特殊使用の場合、保証期間内でも「有償修理」となります。

3) アフターサービスのご依頼について

- ◆ 保証期間中、万一製品が故障してしまった場合
この取扱説明書の「故障かな?と思ったときは」をよくお読みになり、点検を繰り返しても正常に作動しないときは、販売店にご持参いただくか、または最寄りのカスタマーセンターまで梱包の上、ご送付ください。（製品が破損しない様にご注意ください。）保証書の記載内容にしたがって修理させていただきます。
- ◆ 保証期間を過ぎて製品が故障してしまった場合
販売店にご持参いただくか、または最寄りのカスタマーセンターまで運賃元払い（お客様ご負担）にて、下記枠内の内容を記載した用紙を添付し、ご送付ください。修理によって製品の機能を維持できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理をご依頼される際にご連絡いただきたい内容：

- ◆ ご住所
- ◆ ご氏名
- ◆ 電話番号
- ◆ 故障または異常の内容
- ◆ 製品名
- ◆ 製造番号
- ◆ ご購入日

4) アフターサービスについてご不明な点は…

販売店、または最寄りの船井サービス(株)カスタマーセンターまでお問い合わせください。

5) 補修用性能部品の最低保有期間

この製品の補修用性能部品（機能維持のために必要な部品）は、製造打切後最低8年間保有してあります。

ご購入メモ

ご購入記録として下記内容をご記入ください。

（この製品の製造番号は背面および保証書に記載してあります。）

お買い上げ年/月/日	年	月	日
お買い上げ店名/住所/電話番号	☎		
お買い上げ製品の型番	DXBP1TD		
お買い上げ製品の製造番号			

愛情点検

- 長年ご使用の製品の点検を！

（熱、湿気、ほこりなどの影響や、使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。）



このような
症状は
ありませんか

- ◆ 再生しても映像や音が出ない。
- ◆ 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- ◆ 内部に水や異物が入った。
- ◆ ディスクを傷めた。
- ◆ その他の異常や故障がある。



ご使用
中止

このようなときは、故障や事故防止のためスイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ずお買い求めの販売店にご連絡ください。

取扱い・修理に関するご質問は、まず **お買い上げの販売店へ** お問い合わせください。

販売店が分からずお困りの場合は、下記のご相談窓口までお問い合わせください。その際は、

- ・この製品の型番(取扱説明書又は保証書などに記載しています)・ご購入日・具体的な症状などを教えてください。
- ※故障の場合、お問い合わせの前にこの説明書の「故障かな?と思ったときは」もご参照ください。

船井電機お客様ご相談窓口 お買い物・取扱い・修理・補修部品のご注文に関するお問い合わせ

音声ガイダンスに従って、お問い合わせの内容を電話のプッシュボタン(PB)信号で選択してください。担当のご相談窓口へおつなぎします。



0120-952-932 (通話料 無料)

各窓口の受付時間 9:00 ~ 17:30

(土曜・日曜・祝日及び夏季休暇・年末年始は除く)

※修理受付センターへはおつなぎできませんので、直接お問い合わせください。

- ・IP電話などで上記番号をご利用にならない場合は、各相談窓口まで直接お問い合わせください。(通話料:無料)
- ・ナビダイヤルでのお問い合わせは、2010年3月末で終了しました。ご利用誠にありがとうございました。

1

お買い物・取扱いのご相談窓口

船井電機株式会社 お客様ご相談室

電話 (072) 871-1110 FAX (072) 871-1199
Web <http://www.funai.jp/support/>

各相談窓口におけるお客様の個人情報の取扱いについて
・お客様より船井電機株式会社およびグループ会社にお電話いただいた場合には、正確にご回答するために、通話内容を記録(録音など)させていただくことがあります。また、折り返しお電話させていただくために、ナンバーディスプレイを採用しています。あらかじめご了承のうえ、お問い合わせください。
・ご相談、ご依頼いただいた内容によっては、サービス活動およびその後の安全点検活動のために、弊社グループ会社および秘密保持契約において厳正に管理された業務委託会社に個人情報を提供させていただくことがあります。

2

修理ご相談窓口(技術相談窓口)、修理品持込・送付先、アフターサービス

対象地区 関東・甲信越を除く全国

船井サービス株式会社 本社カスタマーセンター

電話 (06) 6746-3373 FAX (06) 6746-3374
住所 〒577-0012 大阪府東大阪市長田東3-2-43 長田SKパークビル1F

対象地区 関東・甲信越

船井サービス株式会社 東京カスタマーセンター

電話 (042) 679-5402 FAX (042) 679-5406
住所 〒192-0363 東京都八王子市別所 1-18-10

Web <http://www.funai-service.co.jp/repair/>

船井サービス株式会社 修理受付センター
(出張修理・持込修理受付窓口)

◆出張修理のご依頼や修理品の持込込み・ご送付は下記窓口でもお受けしております。

札幌修理受付センター

☎ (011)281-0130 FAX (011)281-0137
〒060-0061 北海道札幌市中央区南一条西 10-4 南大通ビルアネックス 1F

仙台修理受付センター

☎ (022)299-1658 FAX (022)299-1662
〒984-0046 宮城県仙台市若林区二軒茶屋 3-5 鷹原ビル 1F

名古屋修理受付センター

☎ (052) 735-0440 FAX (052) 735-0441
〒466-0064 愛知県名古屋市中区鶴舞 3-4-3 富田ビル 2F

津山修理受付センター

☎ (0868) 28-7586 FAX (0868) 28-1746
〒708-0015 岡山県津山市神戸 88

福岡修理受付センター

☎ (092) 475-1252 FAX (092) 475-3227
〒812-0014 福岡県福岡市博多区比恵町 17-7 サンティバークビル 1F

3

付属品(リモコンなど)・補修部品のご注文窓口

船井サービス株式会社 部品受注センター(全国)

電話 (0868) 28-7183 FAX (フリー) 0120-0271-82(通話料:無料)
Web <http://www.funai-service.co.jp/shop/> (オンラインショッピング)

名称・所在地・電話番号は都合により予告無く変更する場合がございますので、ご了承ください。

【DXアンテナ株式会社】

受付時間9:00~17:30(土曜・日曜・祝日および夏季休暇・年末年始は除く)

首都圏ホームエレクトロニクス営業部

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町19番地 秋葉原ビルディング7F
☎ (03) 3526-5318 FAX (03) 3526-5712

近畿ホームエレクトロニクス営業部

〒532-0011 大阪市淀川区西中島7丁目4番17号 新大阪上野東洋ビル8F
☎ (06) 6889-1530 FAX (06) 6889-1540

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記をご利用ください。

ホームページアドレス <http://www.dxantenna.co.jp/>

- | | | | |
|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ・札幌支店 TEL.(011)822-1251(代) | ・宇都宮営業所 TEL.(028)659-1100(代) | ・金沢支店 TEL.(076)261-9988(代) | ・高松営業所 TEL.(087)868-1222(代) |
| ・旭川出張所 TEL.(0166)37-5830(代) | ・新潟営業所 TEL.(025)276-2166(代) | ・富山営業所 TEL.(076)422-7878(代) | ・松山営業所 TEL.(089)925-3826(代) |
| ・東北支店 TEL.(022)243-2141(代) | ・茨城営業所 TEL.(029)826-5341(代) | ・大阪支店 TEL.(06)6304-5651(代) | ・福岡支店 TEL.(092)541-0168(代) |
| ・盛岡出張所 TEL.(019)636-1581(代) | ・千葉支店 TEL.(043)253-1121(代) | ・堺営業所 TEL.(072)278-5311(代) | ・北九州営業所 TEL.(093)922-6556(代) |
| ・郡山出張所 TEL.(024)921-7131(代) | ・静岡営業所 TEL.(054)281-0141(代) | ・京都営業所 TEL.(075)382-6141(代) | ・長崎出張所 TEL.(095)842-0780(代) |
| ・東京支店 TEL.(03)3526-5402(代) | ・浜松営業所 TEL.(053)461-6885(代) | ・神戸支店 TEL.(078)579-8550(代) | ・大分営業所 TEL.(097)504-7799(代) |
| ・東京東出張所 TEL.(03)5654-9881(代) | ・中部支店 TEL.(052)919-6531(代) | ・姫路営業所 TEL.(079)283-5920(代) | ・熊本営業所 TEL.(096)325-0711(代) |
| ・多摩営業所 TEL.(042)572-4911(代) | ・松本営業所 TEL.(0263)27-7801(代) | ・広島支店 TEL.(082)237-5331(代) | ・南九州営業所 TEL.(099)267-8211(代) |
| ・横浜支店 TEL.(045)651-2557(代) | ・豊橋営業所 TEL.(0532)57-2133(代) | ・岡山営業所 TEL.(086)245-2948(代) | ・沖縄営業所 TEL.(098)874-6202(代) |
| ・北関東支店 TEL.(048)652-3311(代) | ・三重出張所 TEL.(059)226-1643(代) | ・山陰出張所 TEL.(0853)24-2343(代) | |

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078)682-0001(代) 東京支社/〒101-0023 東京都千代田区神田松永町19番地 秋葉原ビルディング7F TEL.(03)3526-6327(代)

販売元: DXアンテナ株式会社	〒652-0807	兵庫県神戸市兵庫区浜崎通2番15号
製造元: 船井電機株式会社	〒574-0013	大阪府大東市中垣内7丁目7番1号

※ 所在地、電話番号は都合により変更する場合がございますので、ご了承ください。(2010年10月現在)

E5VG6JD

1VMN30454 ★★★★★

Printed in China



* 1 V M N 3 0 4 5 4 *